

第4回越谷市模擬議会会議録

(平成28年11月12日開催)

越谷市議会

第4回 越谷市模擬議会会議録目次

11月12日(土)	○議事日程	1
	○開 会	5
	○市議会議長の挨拶	5
	○市長の挨拶	6
	○副市長並びに教育長の紹介	7
	○開 議	7
	○諸般の報告	7
	△会議の説明出席者職・氏名の報告	7
	△欠席模擬議員及び一般質問取り下げの報告	7
	○会議録署名議員の指名	8
	○会期の決定	8
	○市政に対する一般質問	8
	1番 清水 さくら 模擬議員	8
	2番 松山 佳奈 模擬議員	11
	3番 加藤 玲 模擬議員	13
	4番 和田 沙帆 模擬議員	15
	5番 内海 仁 模擬議員	17
	6番 中川 アデル雄太 模擬議員	19
	○休 憩	21
	○開 議	21
	○市政に対する一般質問	21
	7番 横川 舞 模擬議員	21
	8番 小里 凌 模擬議員	23
	9番 山崎 洸太 模擬議員	25
	10番 井坂 桃菜 模擬議員	26
	12番 仁科 佑真 模擬議員	28
	13番 相澤 達也 模擬議員	29
	14番 安藤 裕也 模擬議員	31
	15番 渡部 拓海 模擬議員	33
	○休 憩	36

○開 議	3 6
○市政に対する一般質問	3 6
1 6 番 鶴 見 喬 模擬議員	3 6
1 7 番 原 智 宏 模擬議員	3 8
1 8 番 佐 藤 朱 莉 模擬議員	4 0
1 9 番 戸 張 友加里 模擬議員	4 3
2 0 番 岩 淵 伊 織 模擬議員	4 5
2 2 番 有 澤 颯 太 模擬議員	4 8
2 3 番 奈 良 美帆子 模擬議員	4 9
○閉 議	5 2
○市議会副議長の挨拶	5 2
○閉 会	5 3



署 名 議 員	5 5
---------------	-----



参 考 資 料

1 模擬議員名簿	5 7
1 一般質問通告一覧表	5 8



感 想 文	6 1
-------------	-----



議 会 風 景

第4回 越谷市模擬議会 第1日

平成28年11月12日（土曜日）

議 事 日 程

- 1 開 会
- 2 市議会議長の挨拶
- 3 市長の挨拶
- 4 副市長並びに教育長の紹介
- 5 開 議
- 6 諸般の報告
 - △ 会議の説明出席者職・氏名の報告
 - △ 欠席模擬議員及び一般質問取り下げの報告
- 7 会議録署名議員の指名
- 8 会期の決定
- 9 市政に対する一般質問
 - 1 番 清 水 さくら 模擬議員
 - 2 番 松 山 佳奈 模擬議員
 - 3 番 加 藤 玲 模擬議員
 - 4 番 和 田 沙帆 模擬議員
 - 5 番 内 海 仁 模擬議員
 - 6 番 中 川 アデル雄太 模擬議員
- 10 休 憩
- 11 開 議
- 12 市政に対する一般質問
 - 7 番 横 川 舞 模擬議員
 - 8 番 小 里 凌 模擬議員
 - 9 番 山 崎 洸太 模擬議員
 - 10番 井 坂 桃菜 模擬議員
 - 12番 仁 科 佑真 模擬議員
 - 13番 相 澤 達也 模擬議員
 - 14番 安 藤 裕也 模擬議員
 - 15番 渡 部 拓海 模擬議員
- 13 休 憩

14 開 議

15 市政に対する一般質問

16番 鶴 見 喬 模擬議員

17番 原 智 宏 模擬議員

18番 佐 藤 朱 莉 模擬議員

19番 戸 張 友 加 里 模擬議員

20番 岩 淵 伊 織 模擬議員

22番 有 澤 颯 太 模擬議員

23番 奈 良 美 帆 子 模擬議員

16 閉 議

17 市議会副議長の挨拶

18 閉 会

○出席模擬議員 21名

1番	清水	さくら	模擬議員	2番	松山	佳奈	模擬議員
3番	加藤	玲	模擬議員	4番	和田	沙帆	模擬議員
5番	内海	仁	模擬議員	6番	中川	アデル雄太	模擬議員
7番	横川	舞	模擬議員	8番	小里	凌	模擬議員
9番	山崎	洸太	模擬議員	10番	井坂	桃菜	模擬議員
12番	仁科	佑真	模擬議員	13番	相澤	達也	模擬議員
14番	安藤	裕也	模擬議員	15番	渡部	拓海	模擬議員
16番	鶴見	喬	模擬議員	17番	原	智宏	模擬議員
18番	佐藤	朱莉	模擬議員	19番	戸張	友加里	模擬議員
20番	岩淵	伊織	模擬議員	22番	有澤	颯太	模擬議員
23番	奈良	美帆子	模擬議員				

○欠席模擬議員 2名

11番	永田	浩輝	模擬議員	21番	瀬間	友紀乃	模擬議員
-----	----	----	------	-----	----	-----	------

○越谷市模擬議会における説明出席者

松島	孝夫	越谷市議会議長
服部	正一	越谷市議会副議長
工藤	秀次	越谷市議会議員
山田	裕子	越谷市議会議員
菊地	貴光	越谷市議会議員
畔上	順平	越谷市議会議員
清田	巳喜男	越谷市議会議員
宮川	雅之	越谷市議会議員
大野	保司	越谷市議会議員
松田	典子	越谷市議会議員
福田	晃	越谷市議会議員
畑谷	茂	越谷市議会議員
瀬賀	恭子	越谷市議会議員
武藤	智	越谷市議会議員
島田	玲子	越谷市議会議員
細川	威	越谷市議会議員
高橋	幸一	越谷市議会議員
後藤	孝江	越谷市議会議員

○越谷市模擬議会における出席者

高	橋	努	市	長	
武	藤	繁	副	市	長
吉	田	茂	教	育	長

○本会議に出席した事務局職員

江	原	勝	明	局	長		
田	村	直	也	次	長	(兼)	長
				議	事	課	
小	澤	正	和	調	整	幹	
小	早	川	正	弘	主	幹	
秋	山	和	之	主	幹		
久	松	浩	平	主	事		
高	橋	博	人	主	幹		
木	村		覚	主	事		
北	條	理	恵	主	事		

(開議 9時33分)

◎ 開会の宣告

○奈良美帆子模擬議長 皆さん、おはようございます。

ただいまから、第4回越谷市模擬議会を開会いたします。

私は、本日の模擬議会の議長を務めさせていただきます奈良美帆子と申します。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。



◎ 市議会議長の挨拶

○奈良美帆子模擬議長 初めに、越谷市議会の松島孝夫議長よりご挨拶をお願いいたします。

〔松島孝夫議長登壇〕

○松島孝夫議長 皆さん、おはようございます。越谷市議会議長の松島でございます。本日は、第4回越谷市模擬議会を開催しましたところ、12の高校、大学から21名の皆様に模擬議員としてご参加いただき、まことにありがとうございます。

また、この模擬議会の開催に当たり、ご協力いただきました高橋市長を初め執行部の皆様並びに各高校、大学の関係者の皆様方に、この場をおかりいたしまして改めて厚く御礼を申し上げます。

さて、皆様ご存じのように、本年6月の公職選挙法の改正により、選挙権年齢が18歳以上に引き下げられました。これは、少子高齢化が進む中で国や地域、社会などの現在、そして今後のあり方を決める政治に、若い世代の方々の意見がより反映されるようにすることを目指したものとされております。この模擬議会は、次代を担う若者に市政や議会への関心を深めていただきたいとの趣旨により、平成22年度から開催して、今回で4回目となりますが、今回はそうした選挙権年齢の引き下げも踏まえ、大学生に加えて、新たに高校生の皆様にもご参加をいただいております。



本日は、ふだん質問する立場にある16名の市議会議員が、皆様方の質問に対し、そこに込められた越谷市についての思いも含めてしっかりと受けとめながら、誠意を持って答弁させていただきますので、皆様の視点からの率直なご意見やご提言を発信してください。そして、これを契機に、自分たちの暮らす社会や地域について、さらに関心を持ち、今後のよりよいまちづくりに積極的に参

加をしていただければと思います。皆様の熱意ある若い力と無限の可能性に心から期待をしております。

今日は、大変お忙しい中、高橋市長を初め武藤副市長、吉田教育長にもご同席をいただいております。また、この会議の様子は、傍聴者の皆様やインターネット中継を通じて多くの方がごらんになるかと思いますが、余り気にしないで、皆様の考えを堂々と主張していただきたいと思います。

結びに、本日の模擬議会が、皆様にとって有意義で貴重な経験になることを祈念申し上げ、挨拶とさせていただきます。今日はよろしく願いいたします。

◎ 市長の挨拶

○奈良美帆子模擬議長 次に、高橋 努越谷市長よりご挨拶をお願いいたします。

〔高橋 努市長登壇〕

○高橋 努市長 皆様、おはようございます。ただいまご紹介をいただきました越谷市長の高橋でございます。模擬議会の開催に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

このたびは、市議会の主催によりまして模擬議会がこのように開催されますことに、心からお喜びを申し上げます。また、開催に当たりましてご尽力をいただきました松島市議会議長様、服部副議長様を初め議員の皆様、そしてご協力をいただきました学校関係者の皆様に敬意を表しますとともに、心から感謝を申し上げます。



学生の皆様におかれましては、学業等ご多用の折にもかかわらずご参加をいただき、まことにありがとうございます。質問を準備されるに当たりまして、大変なご苦勞があったことと推察いたします。

さて、近年若者の政治への関心の低さが懸念されておりますが、本日の模擬議会では市政や議会について理解を深めていただくとともに、議場を活用することで市民の皆様が開かれた議会を推進していくことを目的として開催されると伺っております。このたびの公選法の改正により、選挙権年齢が18歳以上に引き下げとなったことから、高校生の皆様もこの場におられますが、このような場で発言をするというのは大変緊張するものでございます。どうかリラックスして市政について質問していただき、市政や議会について理解を深めていただきたいと重ねてお願いを申し上げます。

今日は模擬議会ということで、学生の皆様の質問に対しましては議員の皆様が答弁をされますが、学生の皆様からの貴重なご意見等につきましては、私も今後の参考にさせていただきたいと考えております。

結びに、ご参加の皆様にとりまして、本日が実り多い1日となりますことをご祈念申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

◎ 副市長並びに教育長の紹介

○奈良美帆子模擬議長 なお、本日の第4回越谷市模擬議会には、副市長並びに教育長にも出席いただいておりますので、私から紹介させていただきます。

武藤繁雄越谷市副市長でございます。

○武藤繁雄副市長 おはようございます。よろしくお願いいたします。

○奈良美帆子模擬議長 吉田 茂越谷市教育委員会教育長でございます。

○吉田 茂教育長 よろしくお願ひします。

◎ 開 議 の 宣 告

○奈良美帆子模擬議長 これより、本日の会議を開きます。

◎ 諸 般 の 報 告

○奈良美帆子模擬議長 この際、諸般の報告をいたします。

△ 会議の説明出席者職・氏名の報告

○奈良美帆子模擬議長 本日の模擬議会に説明員として出席をしております者の職・氏名を報告第1号としてお手元に配付しておきましたから、ご了承願ひします。

△ 欠席模擬議員及び一般質問取り下げの報告

○奈良美帆子模擬議長 次に、本日付で11番、永田浩輝模擬議員、21番、瀬間友紀乃模擬議員から、都合により本日の会議の欠席及び一般質問を取り下げたい旨の申し出がありましたので、ご報告いたします。

以上で諸般の報告を終わります。

◎ 会議録署名議員の指名

○奈良美帆子模擬議長 次に、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員には、会議規則第88条の規定に準じ、私から

2番 松山佳奈模擬議員、3番 加藤 玲模擬議員、4番 和田沙帆模擬議員を指名いたします。

◎ 会 期 の 決 定

○奈良美帆子模擬議長 次に、会期の決定を議題といたします。

お諮りいたします。模擬議会の会期は本日1日間といたしたいと思っております。これにご異議はありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○奈良美帆子模擬議長 ご異議なしと認めます。

したがって、会期は本日1日間と決定いたします。

◎ 市政に対する一般質問

○奈良美帆子模擬議長 これより、市政に対する一般質問を行います。

模擬議会の質問発言者及び答弁者につきましては、あらかじめ一般質問通告一覧表をお手元に配付しておきましたから、ご了承願います。

なお、本日の一般質問につきましては、質問時間は、質問と答弁を含め8分を基本といたしますので、ご了承願います。

それでは、発言順に従いまして、順次質問を許します。

1番 清水さくら模擬議員の発言を許します。

〔1番 清水さくら模擬議員登壇〕

○1番 清水さくら模擬議員 模擬議員の清水さくらです。議長の許可をいただきましたので、介護者不足の解消方法について質問させていただきます。

近年、介護職員不足が問題になっております。私は、その原因の一つが、介護者の負担が大きいことだと考えております。私の母も老人ホームでヘルパーとして働いておりましたが、介護の際に腰を痛めてしまい、仕事をやめてしまいました。そこで、介護職員不足を解消するために、私は介護者の負担を減らすための制度を提案いたします。

神奈川県では、平成27年に職場処遇改善コンサルティング支援事業という特別養護老人ホームや

有料老人ホーム30施設を対象に介護者の動きをサポートするためのロボットスーツ、こちらは腰に巻き付けて、重いものを持ち上げるときにサポートするようなものを100台試験導入するという事業が行われました。その器具を使用した8割以上の介護職員が、疲労感が減少したと評価し、30施設中23施設の離職率が平均4.6ポイント低減したという報告がされています。近年このような高性能な介護補助器具が開発され、介護者不足の手だてとなっているものの、高価なものが多く、なかなか導入されていないのが現状です。そこで、市が介護器具の導入の補助手当を行うことを提案いたします。



また、介護者の負担を減らすためには、介護補助器具の導入に加え、介護者一人一人の介護技術の向上が大切です。そこで、市が無償で介護技術の研修を行うことを提案いたします。研修を行い、正確な介助法をレクチャーすることにより、介護者がより自分に負担の少ない動きで介護をする技術が身につく、肉体的負担の軽減につながると考えます。このような介護者のサポートを充実させることで、介護職員不足が解消されると考えます。

以上の制度導入についてどのようにお考えでしょうか、ご返答をお願いいたします。以上です。

○奈良美帆子模擬議長 ただいまの質問に対し、宮川雅之議員の答弁を求めます。

〔宮川雅之議員登壇〕

○宮川雅之議員 それでは、ただいまの清水模擬議員さんのご質問にお答えをいたします。

団塊の世代の方々が75歳以上となる2025年には、全国で約43万人が必要な介護を受けられなくなり、特に埼玉県を含めた東京圏だけで約13万人が介護難民になるとの試算が発表されています。越谷市の65歳以上の人口は、平成28年4月1日現在で8万399人、高齢化率は23.8%となっており、そのうち要介護認定者数は1万512人で、認定率は約13%となっております。高齢化の進展とともに認定率も年々増加している傾向で、介護職員不足の問題は本市においても深刻な課題であると認識しています。

介護職員について、2014年の調査によりますと、現場で腰を痛めた方は8割を超えており、そのうち仕事をやめようと思ったことがある方は34.4%に上っております。また、離職率は全産業平均で平成24年は14.8%、平成25年は15.6%であるのに対し、介護職については平成24年が17%、平成25年が16.6%と、平均よりも高くなっていることがうかがえます。このような介護者不足、腰痛の予防対策として、介護用リフトの活用のほか、これからは介護ロボットの導入がさらに進んでいきます。これらの導入により、介護職員の負担軽減、労働環境の改善、引いては人材の確保や定着に寄与するものと考えております。

本市におきましては、国の交付金を活用し、介護業務支援ロボットを導入する施設に対し、本年

度より補助を実施することといたしました。また、介護技術向上のための研修は、埼玉県において介護職員を養成する初任者研修や介護福祉士資格取得後の処遇改善を目的とした支援事業など、介護職の方々を対象にした事業を実施しています。また、埼玉県社会福祉協議会においても、国家資格等を取得のための修学資金貸し付けなどを実施しており、市ホームページや広報紙へ掲載するほか、事業者への通知により情報提供しております。

なお、本市では、ことし1月から新たな事業として、埼玉県立大学との共同により毎月1回、相談窓口を設置し、仕事上の悩みや相談をお受けするなど、現場で働く方々の支援に努めているところでございます。今後におきましても、介護の現場で働く方々の負担軽減と離職防止のため、適切な情報提供と支援に努めてまいりたいと考えておりますので、ご理解賜りたいと存じます。以上です。

○奈良美帆子模擬議長 続けての質問はありませんか。(1番 清水さくら議員「はい、議長」と言う)

1番。

○1番 清水さくら模擬議員 再質問させていただきます。

先ほど私が紹介させていただきましたロボットスーツのようなものは、大体1年リースで約100万円ほどかかります。越谷市では、具体的にどのくらいの予算が割り当てられる予定なのでしょうか、教えてください。お願いいたします。

○奈良美帆子模擬議長 ただいまの質問に対し、宮川雅之議員の答弁を求めます。

○宮川雅之議員 それでは、ただいまの清水さくら模擬議員さんの再質問に答弁いたします。

今年度の予算が決まっているわけですが、今金額がちょっと手元にございませぬので、先ほどの1リースにつき100万円という金額がございましたけれども、その金額についてちょっとここでははっきりと幾らという答弁はできませんけれども、予算がついているということだけお答えさせていただきます。以上です。

○奈良美帆子模擬議長 続けての質問はありませんか。(1番 清水さくら模擬議員「はい、議長」と言う)

1番。

○1番 清水さくら模擬議員 今お答えいただいた介護の補助器具を導入するということでしたが、どちらの施設から、どの施設から導入するなど、そのような決まりなどはあるのでしょうか。どの施設が優先されるというような、そのような決まりはあるのでしょうか、お願いいたします。

○奈良美帆子模擬議長 ただいまの質問に対し、宮川雅之議員の答弁を求めます。

○宮川雅之議員 大変申しわけございません、時間がかかってしまって。

新しく始まった事業ですので、これから施設側からこういったロボットを導入してほしいとか、

さまざま要望が寄せられると思うのですけれども、そういった要望に応えるような形で事業が始まっていくと思っております。以上です。

○奈良美帆子模擬議長 続けての質問はありませんか。(1番 議員「ありがとうございました」と言う)

以上で清水さくら模擬議員の質問を終了いたします。

2番 松山佳奈模擬議員の発言を許します。

〔2番 松山佳奈模擬議員登壇〕

○2番 松山佳奈模擬議員 模擬議員の松山です。議長の許可をいただきましたので、子育て支援についての質問をいたします。

近年国内では、少子化が問題視されています。その一方で待機児童、保育士の待遇等、保育にかかわる課題が大きな社会問題となっています。そんな中、子育て支援について越谷市の現状と今後の方針についてお尋ねします。

現在越谷市の全人口はおよそ31万人です。その中で保育園に通うことができるゼロ歳から5歳までの乳幼児はおよそ1万8,000人います。

そして、国に認可されている保育園は45園あります。それに比べ、越谷市と同じくらいの人口を持つ所沢市では、ゼロ歳から5歳までの乳幼児がおよそ1万7,000人います。そして、国に認可されている保育園は61園あります。所沢市のほうが乳幼児の人口も少なく、一方で保育園の総数が多いことがわかります。所沢市では、多少の待機児童がいますが、越谷市のほうが乳幼児の人口が多いにもかかわらず、保育園の数が少な過ぎるのではないのでしょうか。待機児童についての問題の一方で、保育の需要が高まり、保育園の新設が相次ぐ中、保育士の確保が困難な状況が生まれています。保育士資格がありながら離職した原因として、責任の重さに対して待遇が低いことが挙げられています。こうした問題を改善するためには、労働条件の改善を行う以外にはないと思います。こうした現状の中、越谷市ではどのようにして保育士確保に取り組んでいるのかをお伺いします。

また、さいたま市では、お父さんの家事、育児参加を応援するために、これからお父さんになる方や子育て中のお父さんを対象とした冊子、父子手帳というものを作成しています。そういった父親を対象とした子育て支援についての工夫は行われているのでしょうか。

また、地域の親子が保育園の日々の活動や行事に参加することを通じて、子育ての悩みを相談することができたり、子供同士の交流ができるきっかけづくりにもなっていると思います。同時にそういうものには参加できないが、相談だけしたいというケースもあります。子育て等に関する相談や援助の一環として、電話相談などの工夫があれば、保護者の不安が軽減されるのではないのでしょうか。これらを踏まえた上での子育て支援についての越谷市の現状と今後の方針についてお伺いし



ます。以上です。

○奈良美帆子模擬議長 ただいまの質問に対し、武藤 智議員の答弁を求めます。

〔武藤 智議員登壇〕

○武藤 智議員 それでは、ただいまの松山模擬議員さんのご質問にお答えをいたします。

子育て支援について、待機児童がふえる中での現状と今後の方針についてのお尋ねでございますが、現在越谷市では越谷市子ども・子育て支援事業計画に基づき、保育施設の整備拡充に取り組んでおります。平成27年度の待機児童解消の取り組みについては、平成27年4月1日には待機児童28人、保育施設の利用申し込み児童のうち利用に至らなかった児童315人という状況や、昨今の女性の就業率上昇などによる保育ニーズの高まりなどを踏まえ、民間保育園や小規模保育事業等の整備拡充を進め、計画を上回る324人分の定員を拡大いたしました。しかしながら、平成28年4月1日の待機児童は、前年比10人増の38人、保育施設の利用申し込み児童のうち利用に至らなかった児童が272人となり、拡大する保育需要に追いつかず、解消には至っていない現状でございます。

このような状況の中、本年度につきましても、待機児童が多く、人口増が続くレイクタウン地区内に民間保育園の整備を支援するほか、公募により選定した小規模保育事業所の整備の支援を進めています。また、国の新たな制度である企業主導型保育事業について、事業周知や開設相談に応じるなど、企業がみずからの従業員が働きやすい環境づくりの一つとして保育を提供する取り組みについても支援しております。さらに、就学前児童数の減少が見込まれる将来的な展望を踏まえ、新たな保育所を建設するだけでなく、本市の貴重な社会資源である既存の私立幼稚園と連携を図りながら、幼保連携型認定こども園への移行を促進し、保育の受け入れ枠の拡大に取り組んでいるところでございます。今後につきましても、引き続き市民の保育ニーズをしっかりと把握し、民間活力を活用するなど、効率的な手法によって待機児童の解消に取り組んでまいりたいと考えております。以上です。

○奈良美帆子模擬議長 続けての質問はありませんか。（2番 松山佳奈模擬議員「はい、議長」と言う）

2番。

○2番 松山佳奈模擬議員 それでは、再質問させていただきます。

先ほど質問した保育士の数が減少していることについて、保育士の数を増加させるために何か行っていることなどはありますでしょうか。

○奈良美帆子模擬議長 ただいまの質問に対し、武藤 智議員の答弁を求めます。

○武藤 智議員 保育士の確保は、本当に越谷市に限らず、重要な問題だと受けとめております。越谷市としてこれといったことはちょっと記憶にないのですが、保育園関係ですと、ちょっと公立のほうはわからないのですが、私立の保育園では先生を確保するために説明会を市内の保育園全部で

行って、希望者はバスなどをチャーターして各園を回ってご紹介をしていると聞いております。以上でございます。

○奈良美帆子模擬議長 続けての質問はありませんか。(2番 松山佳奈模擬議員「ありません」と言う)

以上で松山佳奈模擬議員の質問を終了いたします。

3番 加藤 玲模擬議員の発言を許します。

〔3番 加藤 玲模擬議員登壇〕

○3番 加藤 玲模擬議員 模擬議員の加藤です。議長の許可をいただきましたので、学校選択制について質問いたします。

中学生のころ、私が親しくさせていただいていた先生が違う学校に移ることになりました。その先生は、私が入学した年にその学校に来た先生だったので、まだ2年目でした。ほかにも同じく2年目で異動という先生が数名いました。そのとき私は、まだ来たばかりなのに、なぜと疑問に思っていました。後日その先生方が臨時採用だったことを知りました。臨時採用の先生方は2年間しかその学校にすることができません。それは、先生からしても、生徒たちからしても、よいこととは思えないのではないのでしょうか。生徒たちからどんなに人気のある先生でも2年で異動。ここで、私が一番親しくさせていただいている先生に、2年間でその学校になれることができるのか聞いてみました。その先生は、やはり2年間ただけではまだ知らないことも多く、完全に慣れたとは言えないのではないかと答えてくれました。このことから、臨時採用の先生方がその学校にまだなれていない状態でほかの学校に移らなければならないというのは、一つの問題となるのではないかと私は思います。



では、なぜ臨時採用の先生が必要なのか。自分なりに調べてみたところ、その原因は毎年入学する生徒数が異なることにあると思いました。私は、越谷市立北陽中学校に通っていました。当時私の学年は人数が少なく、1学年2クラスが普通で、多くても1学年3クラスが限界でした。しかし、私が卒業してから2年ほどたった今現在は急激に人数がふえ、1学年4クラスもあるそうです。なぜ突然入学希望者がふえたのか、疑問に思い、現在越谷市立北陽中学校に通っている生徒やその保護者の方々に、北陽中を選んだ理由を尋ねてみました。私は、学校選択制があるため、部活動が盛んであることや、家から近いこと等で気に入った学校を選んだのだろうと予測していたのですが、実際はそのときの各学校の評判で決めたという理由が最も多かったです。この結果に私は少し驚きました。本来学校選択制は、子供たちが自分の通いたい学校に入学できるよう実施されているものだと思っていましたが、そのときの学校の評判で決めている場合、毎年起こる入学希望者の数の増減の大きな原因であるとともに、新学期直前まで1学年何クラスになるかがわからないため、臨時

採用の先生が多くなってしまいう原因にもつながっているのです。

そこで、学校選択制についてお尋ねします。学校選択制とは、なぜ、どんなメリットがあって実施されているのでしょうか。教えていただきたいです。以上です。

○奈良美帆子模擬議長 ただいまの質問に対し、山田裕子議員の答弁を求めます。

〔山田裕子議員登壇〕

○山田裕子議員 それでは、ただいまの加藤模擬議員さんのご質問にお答えいたします。

越谷市における中学校の学校選択制については、生徒一人一人がより充実した中学校生活を送れるようにするとともに、各学校が取り組んでいる特色ある学校づくりを一層推進し、学校教育の充実を図ることを狙いとして、平成18年度から中学校のみで実施しています。より近い中学校や自分に合った中学校への就学を希望する場合に、通学区域以外の中学校を1校のみ選択することができます。選択制によって指定学校以外へ就学できる人数は、各中学校35名以下と人数制限があり、希望者が多い場合は抽せんとなります。

臨時採用の先生が多くなるのご指摘ですが、例年抽せんは11月に行い、翌年1月20日現在の生徒数で新年度の各学校の教職員の配置を決定しております。よって、選択制を行うことで新年度の教職員採用の見通しが直前まで立たず、臨時的任用教員が多くなってしまいうことはございません。

公立中学校では、臨時的任用教員は原則として1年の勤務で他校へ行かなければならず、生徒にとって信頼を寄せる教職員がわずか1年で学校を去ってしまうことに残念な気持ちになることは当然のことだと思えます。現在の決まりではやむを得ないところではありますが、埼玉県ではその学校の教科や部活動の関係で臨時的任用教員を引き続きその学校に勤務させる必要があるとき、市教育委員会が県教育委員会に申請し、承認があれば、最大2年までその学校に勤務することも可能です。

お尋ねの学校選択制のメリットとしては、希望する部活動を選択できる。通学の安全や距離で選択できる。中学校の特色や校風で選択できる。友人関係など個々のさまざまな事情に対応できるなど、主に児童の意思の尊重がなされ、将来の可能性が広がることが挙げられます。毎年行っている中学校選択制についての保護者アンケートでは、基本学区外を選択する理由は、子供本人の希望、部活動、通学距離が近いの3つの理由が全体の9割近くを占めています。私も一議員として、生徒の皆さんがより充実した中学校生活を送れるよう努力してまいりたいと思えます。以上です。

○奈良美帆子模擬議長 続けての質問はありませんか。(3番 加藤 玲模擬議員「ありません」と言う)

以上で加藤 玲模擬議員の質問を終了いたします。

4番 和田沙帆模擬議員の発言を許します。

〔4番 和田沙帆模擬議員登壇〕

○4番 和田沙帆模擬議員 模擬議員の和田です。議長の許可をいただきましたので、市民参加と協働による市政、市のホームページについて質問させていただきます。



第4次越谷市総合振興計画を拝見いたしました。その中で、私は市民参加と協働による市政を進めるところに興味を持ちました。公職選挙法が改正され、18歳以上が選挙権を持つようになったことは記憶に新しく、国民の政治への参加はますます求められていくものと思います。そのためには、若い世代が政治に関心を持ち、政治を知ること重要だと思います。しかし、私自身選挙権を持つ年齢になりましたが、政治についてわからないことも多く、どの候補者に投票するべきかということもわからないことがあります。また、周りの友人に聞いてみても、どの候補者に投票するべきかわからないだけでなく、投票に行かないという人も少なくないほど、政治に関心を持っているという人は少ないように感じています。若者の政治無関心、無投票が問題視されているということをよく耳にしますが、どうやって関心を持ったらいいいかわからないという現状もあるように感じています。

越谷市では、ホームページのアクセス数を平成26年度に月に103万件から、平成32年度までには月に120万件まで上げるという目標を立てているということを知りました。ホームページを見ることが、市民が市について知ることができ、政治に関心を持っていく第一歩として重要なことであると思います。ホームページを見るという行為は、例えば市役所の営業時間を知りたいなど、何か困ったことがあり、調べてみるということが多いと思います。しかし、アクセス数を上げるためには、市民が市の動向について知りたいとか、市の条例を知りたいなど、積極的な閲覧につなげていくことや、市のホームページを見ればこんなことがわかるということをもさまざまな世代に認知されることなど、必要なことはたくさんあるのではないかと思います。

そこで、お聞きしたいのですが、ホームページのアクセス数を上げるために具体的にどのような取り組みを行っているのでしょうか。今行っていること、これから行う予定のあることがあれば教えてくださいたいと思います。以上で質問を終わりにします。

○奈良美帆子模擬議長 ただいまの質問に対し、瀬賀恭子議員の答弁を求めます。

〔瀬賀恭子議員登壇〕

○瀬賀恭子議員 それでは、ただいまの和田模擬議員さんのご質問にお答えをいたします。

市ホームページのアクセス数向上についてのお尋ねでございますが、本市の情報を広く市内外に向けて発信するためには、インターネットを活用した広報が不可欠と考えております。ホームページのアクセス件数は、情報発信の成果を測定する数値として適していると考えられることから、第

4次越谷市総合振興計画の指標としております。近年のスマートフォンの普及に伴い、スマートフォン専用のサイトへのアクセス件数が平成26年度と27年度の比較で約1.5倍にふえるなど、ホームページでの情報発信のニーズが高まっております。ホームページ全体の月平均アクセス件数も、平成26年度から27年度の比較で約1.2倍に増加しました。

現在の市ホームページは、平成23年11月に全面改定を行ったもので、改定後5年を経過いたしました。この間、中核市への移行に伴う事務の増加といった要因もありますが、5年間の運用で総ページ数が約4,000ページから7,000ページに増加いたしました。ページ数の増加によって、改定当初の整理の方法では情報が探しづらくなっている部分もあり、ホームページ全体の見直しが必要な時期を迎えております。また、近年他自治体の公式ホームページでは、観光振興や定住促進を目標とした特設ページが次々と作成されており、本市においても市の魅力を発信するページの作成も必要であると考えております。

これらの課題を踏まえ、市では関係課によるホームページの検討部会を設け、目的のページを探しやすいホームページの構成や本市の特徴がわかりやすく、かつ印象に残るようなホームページへの改定を目指して検討を進めております。このほか平成26年1月に職員みんなでPRと題した冊子を全職員に配布し、職員一人一人が市の魅力を発信する主体であるということ意識づけるとともに、市ホームページの操作研修を毎年実施し、ホームページからの情報発信の推進、拡大を図っております。ホームページの改定とあわせ、職員が積極的にホームページを活用し、情報を発信できる体制を整え、市内外へのきめ細かな情報発信を実現することによって、アクセス数の増加につながるものと考えておりますので、私も一議員として市民の皆様により見やすく、わかりやすいホームページとなるよう、さらに働きかけてまいります。以上でございます。

○奈良美帆子模擬議長 続けての質問はありませんか。(4番 和田沙帆模擬議員「はい、議長」と言う)

4番。

○4番 和田沙帆模擬議員 答弁ありがとうございます。

そこで、スマートフォンの普及に伴って、スマートフォン専用のサイトのアクセス数も上がっているということだったのですが、スマートフォンというところで、私が以前ニュースを見ていたときに、京都市でみつけ隊というスマートフォンのアプリを使用した市民と市のつながりがあるということを見る機会がありました。そのアプリでは、市民が応援隊となって、道路や公園などの損壊場所を写真投稿すると、それを受けた市が修復を行うというもので、これは一つの例ではあるのですが、調べてみるとさまざまな自治体でさまざまな分野におけるアプリを作成されているということもわかりました。

スマートフォンの普及が著しい現在、スマートフォン専用のサイトというのがすごくわかりやす

くて、よい取り組みだと思うのですが、そのスマートフォンのアプリを介した市政参加というのは、私たちの世代の目線からしてみたらすごく手軽で、関心が持ちやすいと思うのですが、越谷市で何かアプリを使うとか、手軽な市民参加をするような何か工夫を行われていることがあれば、教えていただきたいと思います。

○奈良美帆子模擬議長 ただいまの質問に対し、瀬賀恭子議員の答弁を求めます。

○瀬賀恭子議員 それでは、ただいまの和田議員さんの再質問にお答えいたします。

やはり近年スマホを使用しての方が大変ふえておりまして、ホームページも多いのですけれども、スマホの方たちも大変ふえております。先ほど和田議員さんがおっしゃいましたスマホアプリを利用した、例えば道路補修ですとか、市民の皆様からの直接のご意見をいただけるというのは、私も大変有効であると考えております。越谷市のホームページにアクセスしていただきますと、スマホ専用の方へのアクセスという部分につながります。そこにつながっていただきますとさまざま検索ができる状況ではありますけれども、やはりこれからはスマホの方たちも大変多くなることを踏まえまして、さらに市のほうでもこれまで使ったことがない方たちへの、また市民サービスの向上といたしまして、やはりまずは周知が必要ではないかと考えております。その周知の方法として、例えばスマホの接続のアクセスの仕方のチラシを現在公共施設等にも置いてありますが、例えば職員が行っております出張講座等におきましても、そこでスマホですとか、普通の携帯を使ってのアクセスをまずはしていただくところから始めていくのがよろしいのではないかと考えております。私も今和田議員さんから言われました、そのスマホアプリに関しましては、また市のほうに働きかけてまいりたいと思います。以上でございます。

○奈良美帆子模擬議長 続けての質問はありませんか。（4番 和田沙帆模擬議員「ありません」と言う）

以上で和田沙帆模擬議員の質問を終了いたします。

5番 内海 仁模擬議員の発言を許します。

〔5番 内海 仁模擬議員登壇〕

○5番 内海 仁模擬議員 模擬議員の内海です。議長の許可をいただきましたので、市立図書館の蔵書について質問をいたします。

私が市立図書館で本を探していて思ったことなのですが、専門書や教材本が多く、置かれている小説等も懐かしいと思えるものが多いと感じました。また、同様なことを友人からも言われておりました。出羽地区や、ほかの市の図書館では、ライトノベルや比較的新しい小説も配架されていると伺いました。配架されているライトノベルを借りるために、月に何度も図書館に足を運ぶ友人もいます。また、私も私の読みたいタイトルがあれば、今よりずっと多く図書館を利用すると思います。また、ライトノベルや小説は、特別な知識を持っていなくても気軽に読むことができるため、

何か本が読みたいと思ったときにも簡単に手にとれると思います。

そして、メディア化した作品は、多くの人が原作として気になると思います。しかし、そのような作品は長く続いているものもあり、全ての巻をそろえるには金銭的に困難な場合があります。このような場合、読みたくても読めない方もいると思います。そのようなとき、市立図書館で借りて読むことができるのであれば、とても魅力的だと思います。自分の気になる本を見るついでにほかの本にも手を伸ばしてみようという人も多いと思います。そのためライトノベルや小説を配架



することで、ほかの本に興味を持ってもらえるきっかけになると同時に、図書館の利用数の増加にもつながると思います。特に自分のようにアニメや漫画、ライトノベルが好きな人や小説を好んで読む人、メディア化した作品が読みたい人、このような方の利用数がふえ、図書館がもっと楽しめる場所になると思います。

ほかにも、その時々トレンドになっている本をその都度置くことにより、多くの人が読みたいと考え、図書館で借りて読んだりすると思います。そして、その続きやその人の著書、ほかの著書などにも興味を持つことで、多くの本に親しむ機会ができると思います。本と親しむ方がふえていけば、さきに挙げたとおり、図書館の利用人数が増加し、もともと配架されている本もより多くの人の目に触れることになると思います。

以上のことから、ライトノベルや小説を市立図書館にも配架してみてもどうかと考えます。以上です。

○奈良美帆子模擬議長 ただいまの質問に対し、清田巳喜男議員の答弁を求めます。

〔清田巳喜男議員登壇〕

○清田巳喜男議員 それでは、ただいまの内海模擬議員さんのご質問にお答えをいたします。

本市には、本館である市立図書館のほかに、移動図書館、北部図書室、南部図書室、中央図書室があり、それぞれの立地特性等を踏まえ、各分野の図書を収集しているところでございます。また、市立図書館と各図書室はコンピューターシステムによってネットワーク化されており、どこで借りて、どこへ返してもよく、インターネット検索により所蔵の状況が全てわかり、予約もできるようになっております。さらに、平成24年6月に新設した中央図書室と平成26年9月に移設、拡充した南部図書室には、中学生や高校生向けのライトノベルを含むティーンズコーナーを整備し、10代の利用者の読書環境の充実に努めているところでございます。

一方、本市における図書館行政の中心的な役割を果たす市立図書館にも、10代の利用者向けのコーナーはありますが、本館として各図書室にはない本を所蔵することが求められるとともに、専門的な分野の調査研究に役立つ資料、これも整備する必要がある、さらには古い本でも価値あるもの

を保存していく機能を果たさなければなりません。こうしたことから、蔵書については限られたスペースの中で市全体としてバランスのとれた資料群となるように心がけているところでございます。

なお、ネットワーク化はされておりませんが、より身近な施設である地区センター、公民館の図書コーナー、ここにも各分野の図書をそろえております。また、読みたいものが本市の蔵書にない場合には、新たに購入するか、県内の他市町村の図書館から借りて貸し出しをする、こういうことも可能となっております。いずれにいたしましても、市立図書館と北部、南部、中央図書室、この各図書室の所蔵を調べるなどして、トータルなご利用をしていただければと思っておりますが、ご質問の件につきましては私も一議員としてより皆様が利用しやすくなるよう努めてまいりたいと存じます。

最後になりますが、これからの時代は財政の状況がますます厳しくなり、図書館サービスの提供にも一定の限界が生じてくるものと認識しておりまして、既存のサービスをより有効に活用することが大切であると考えている、このことを最後につけ加えさせていただきたいと思っております。私からは以上でございます。

○奈良美帆子模擬議長 続けての質問はありませんか。(5番 内海 仁模擬議員「ありません」と言う)

以上で内海 仁模擬議員の質問を終了いたします。

6番 中川アデル雄太模擬議員の発言を許します。

〔6番 中川アデル雄太模擬議員登壇〕

○6番 中川アデル雄太模擬議員 模擬議員の中川アデル雄太です。議長の許可をいただきましたので、越谷市の観光事業について質問させていただきます。

私は、越谷市の発行する広報や市勢要覧を通じ、越谷には多くの史跡等の歴史的資源、イベント等の地域活動的資源、都市公園などの都市的資源があることを知りました。このほかにも多くの伝統工芸等があることを知りました。知れば知るほどこれらの魅力を感じ、自分が住むまちの観光事業を多くの人に知ってもらいたい、見てもらいたい



と思うようになりました。しかし、私が越谷市に長年住む中で、越谷レイクタウンを除き全国的に有名な観光資源が少ないためか、観光客が多数いて、活気に満ちあふれているという状況を余り見たことがないように思います。越谷市民として、市内外の多くの人の力で越谷市の観光事業をもっと盛り上げられたら大変うれしく思います。

また、2015年の訪日外客数は前年比47.1%増の1,973万7,000人で、過去最高であった2014年の

1,341万3,000人を600万人余り上回り、1970年以来45年ぶりに訪日外客数が出国日本人数を上回りました。このように訪日外国人の数も増加してきており、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの際も多く外国人が来日することが予想され、観光資源によって越谷市をアピールするチャンスも今後数多く生まれるのではないかと考えております。

そこで、質問なのですが、越谷市に多数ある観光資源を利用した観光事業の今後の方針や方向性、新たな取り組み等があれば教えていただきたいです。また、観光資源、伝統工芸等を一挙に見たり、体験することができるようなツアー等があれば、観光客の方も住民の方も越谷をもっと好きになれる絶好の機会になるかと思うのですが、いかがでしょうか。質問は以上です。よろしく願いいたします。

○奈良美帆子模擬議長 ただいまの質問に対し、後藤孝江議員の答弁を求めます。

〔後藤孝江議員登壇〕

○後藤孝江議員 それでは、ただいまの中川模擬議員さんのご質問にお答えをいたします。

越谷市の観光事業についてのお尋ねでございますが、市内には5本の1級河川や葛西用水など水郷こしがやを象徴する豊かな水辺空間、旧日光街道沿いの歴史的建築物や伝統的地場産業などの魅力ある観光資源が数多く存在しております。また、観光イベントといたしましては、越谷市民まつり、北越谷桜まつり、越谷花火大会、田んぼアート事業、南越谷阿波踊りなどがあり、いずれの事業も市内外から多くの皆様が訪れ、にぎわいを見せております。

本市と株式会社JTB関東は、昨年6月2日に相互の資源を有効に活用するため、県内市町村では初となる観光振興に関する包括連携協定を締結いたしました。この包括連携協定を踏まえ、具体的な事業の一つとして、市内にある観光資源をめぐり、体験するモニターツアーを実施しております。実施したモニターツアーでは、田んぼアート事業と連携した田植え、稲刈りや越谷いちごタウンにおけるイチゴ狩りなどの農業体験を初め、大相模調節池でのディンギーボートの乗船体験や伝統的手工芸品である越谷だるまの絵付け体験を実施いたしました。さらに、日本庭園花田苑や日本文化伝承の館こしがや能楽堂など日本の伝統文化や芸能などを感じさせる施設についてもツアーで見学する行程に取り入れ、観光資源として捉えております。

また、本年度については、本市を含む草加市、八潮市、三郷市、吉川市及び松伏町の5市1町で構成される埼玉県東南部都市連絡調整会議において、2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックを見据えた外国人モニターツアーの実施が企画されました。8月21日に開催されたモニターツアーでは、市内の飲食店における越谷産のイチゴやネギを素材として扱った料理の提供や、南越谷阿波踊りへの参加がございました。これらのモニターツアーのアンケートの結果は、いずれも好評だったと伺っており、本市の観光資源の魅力は十分ポテンシャルがあると私は考えております。

さらに、これらの観光資源の魅力を生かし、地域全体の活性化に結びつけるためには、観光スポットを点から線へ、線から面へと高次元に創出する公共交通手段の充実並びに来訪者の滞在時間や旅行消費額に大きく影響するホテルなどの宿泊施設の誘致を初めとする観光基盤の整備に民間企業と連携して取り組む必要もごございます。いずれにいたしましても、観光振興は地域内の幅広い産業に経済効果をもたらすとともに、多くの雇用を生み出すことが期待できる成長分野であり、にぎわいを創出する重要な視点として議員の立場から推進してまいります。以上でございます。

○奈良美帆子模擬議長 続けての質問はありませんか。(6番 中川アデル雄太模擬議員「ありません。ありがとうございました」と言う)

以上で中川アデル雄太模擬議員の質問を終了いたします。

◎ 休 憩 の 宣 告

○奈良美帆子模擬議長 この際、暫時休憩いたします。

(休憩 10時38分)



(開議 11時01分)

◎ 開 議 の 宣 告

○奈良美帆子模擬議長 休憩前に引き続き会議を開きます。

◎ 市 政 対 する 一 般 質 問

○奈良美帆子模擬議長 市政に対する一般質問を続けます。

7番 横川 舞模擬議員の発言を許します。

[7番 横川 舞模擬議員登壇]

○7番 横川 舞模擬議員 模擬議員の横川 舞です。議長の許可をいただきましたので、高齢者のバス利用について質問をいたします。

国内では、高速道路での逆走、アクセルとブレーキの踏み間違いによる衝突、暴走などによる高齢者ドライバーの大けが、死亡事故が多発しています。高齢者に限らず、運転中にドライバーの体調急変などにより運転操作が困難な状況に陥り、大事故につながってしまうというケースも少なくありません。また、年々国の全体の交通事故の件数は減っていますが、高齢者による交通事故の件

数はふえ続けているのも問題です。

そこで、高齢者のためのシルバーパス制度についてお尋ねしたいと思います。東京都では、東京都在住で70歳以上の高齢者は、都営バスや都営線の電車に自由に乗車することができる有料チケット、シルバーパス制度を実施しています。この制度を実施することにより、高齢者の社会参加の助長、高齢者福祉の向上を図るとともに、高齢者ドライバーが車を手放し、交通手段をバスや電車に切りかえることにより、高齢者の運転事故も減らすことができると考えています。実際に東京都に住んでいる私の祖母も東京都シルバーパスを利用しており、現在は車の運転をしていませんが、安心できる、事故の心配がなくなったと話しています。



高齢者ドライバーの事故防止についての今後の対策や、越谷市でのシルバーパス制度の実現についてお聞きします。以上です。

○奈良美帆子模擬議長 ただいまの質問に対し、宮川雅之議員の答弁を求めます。

〔宮川雅之議員登壇〕

○宮川雅之議員 それでは、ただいまの横川模擬議員さんのご質問にお答えをいたします。

シルバーパスとは、高齢者が公共交通機関を利用する際、パスの提示を行うことで利用料金の割引または無料とすることで交通機関を利用しやすくし、高齢者の社会参加や外出による健康増進を促すものとされています。越谷市の65歳以上人口は、平成28年4月1日現在で8万399人、人口の23.8%となっており、高齢化に対応する施策の充実が重要な課題となっております。高齢者の方々が住みなれたまちで元気に暮らし続けることができるようにするために、横川模擬議員さんご提案のシルバーパスも高齢者の積極的な外出を促し、社会参加と健康の増進に効果が期待され、大変意義ある提案と考えます。

シルバーパスは、政令指定都市などで発行されておりますが、その実施方法はさまざまで、収入などに応じて利用者に一定の負担をしていただく仕組みもとられているようです。一例として、横浜市の市営民営バス、市営地下鉄で利用できる敬老特別乗車証事業では、総事業費106億4,700万円のうち利用者の自己負担が17億9,800万円で、残る88億5,000万円が市の支出で賄われたということです。越谷市では、高齢者の健康増進のため、市内4カ所の老人福祉センター利用者向けにバス利用券をお渡しする送迎委託事業を行っており、事業費約870万円のうち全額を市の支出で賄っております。

横浜市は、人口370万人を超え、市営で公共交通網が整備されているなど、越谷市と単純に比較できるものではありませんが、同様の事業には毎年数億円の支出が必要になると試算されることから、シルバーパス制度の導入は難しいものと考えます。千葉市や静岡市のように、シルバーパス

業を行っていたものの、その後廃止した自治体もあり、本市の老人福祉センター送迎委託事業も平成26年6月より往復の利用券発行から帰りのみの発行とし、巡回バス事業も廃止するなど事業が見直され、他の事業で高齢者の社会参加を促進しております。

しかしながら、横川模擬議員さんご提案の趣旨は大変重要な課題と受けとめており、今後とも公共交通利用も含め、越谷市にふさわしい方策を皆さんと一緒に考え、高齢者が健康で生きがいを持って安心して暮らせるまちづくりを進めてまいりますので、ご理解をお願いいたします。以上です。

○奈良美帆子模擬議長 続けての質問はありませんか。(7番 横川 舞模擬議員「ありません。ありがとうございます」と言う)

以上で横川 舞模擬議員の質問を終了いたします。

8番 小里 凌模擬議員の発言を許します。

〔8番 小里 凌模擬議員登壇〕

○8番 小里 凌模擬議員 模擬議員の小里です。議長の許可をいただきましたので、住宅街の街灯について質問をいたします。

私が以前私用で越谷市を通った際に、街灯の少なさを感じました。駅の近くは街灯が多く、夜でもとても明るいと思いました。しかし、駅から離れた住宅街はとても暗いと感じました。そのときは大体午後7時ごろだったのですが、ここを小学生、中学生が通るにはとても暗いと感じました。調べによると、越谷市には小学校が30校、中学校が16校、高等学校が私立、公立合わせて10校あります。そして、市内の市立小学校、市立中学校及び市内にある県立もしくは私立の高校に通っている人数は、小学生が1万7,873人、中学生が8,735人、高校生が9,579人いることがわかりました。小学生のクラブ活動がある児童は、帰宅時間が18時くらい、中学生の帰宅時間は部活動がある子で18時30分くらい、高校生の帰宅時間は部活動がある子で20時くらいです。11月の日の入り時間を約16時30分とすると、小学校高学年生、中学生、高校生が帰るころには既に暗くなっていることとなります。そして、最近未成年を狙う事件も多発しています。街灯が少なく、暗い住宅街を帰るのは危険なのではないでしょうか。私の友人も市民会館の近くの川沿いの通りを通学路に使うが、夕方から夜にかけて暗いし、最近不審者もふえているから怖いと言っていました。念のためほかの人に聞いたところ、やはりほかの市より住宅街が暗いとの意見が多数ありました。以上のことから、私は越谷市に住宅街の街灯をふやすことを提案したいと思います。



そこで、私が質問したいことは、現時点で住宅街街灯増設について、何か越谷市が行っていることはあるかということです。もしないようでしたら、新しく街灯増設を行っていただきたいと思います。もちろんすぐに実行できるわけではないと思います。もし街灯をふやすことが決まった際に

は、一度越谷市のホームページにそのことの概要を載せてみてはいかがでしょうか。街灯増設について、明確に掲載することができれば、街灯の少なさに対し不安を抱いている方々も少しは安心できるのではないのでしょうか。前向きにご検討をお願いします。以上です。

○奈良美帆子模擬議長 ただいまの質問に対し、菊地貴光議員の答弁を求めます。

〔菊地貴光議員登壇〕

○菊地貴光議員 それでは、ただいまの小里模擬議員さんのご質問にお答えをいたします。

市では、道路照明灯については交通事故を防止するとともに、歩行者や自転車利用者の安全かつ快適な通行を確保するため、地元自治会長等から要望をいただき、暗い交差点や交通量の多い道路、見通しの悪い道路等を中心に設置をすることとしています。設置における間隔の目安については、以前は市街化区域においては100メートル、それ以外の区域においては160メートルを一つの基準として整備してまいりました。その後、照明灯の整備状況及び住民の防犯意識の高まり等により、整備基準を平成26年度から改め、市街化区域においては従来の100メートルを60メートルに、それ以外の区域においては160メートルを90メートルにふやすことにし、さらなる安全性の向上に努めております。

実績としては、年間約280基の道路照明灯を設置し、平成28年3月末現在、市で1万3,593基の道路照明灯を設置、管理しております。また、道路照明灯を設置するに当たり、隣接する方の同意を必要としており、田畑等の隣接する場所では農作物の育成や収穫量低下などの影響が懸念されることから、安全のために道路照明灯が必要な箇所にもかかわらず、設置が困難となるなどの課題もございしますので、課題解決に向け調査、検討を行ってまいりたいと思います。

さらに、現在市ではLED化の取り組みを進めております。LEDは長寿命であり、消費電力も少ないことから、電気料金や修繕費用の低減が期待されるとともに、地球温暖化対策に貢献できます。このため既存道路照明灯7,800基をリース方式により平成27年度に実施しました。さらに、新規設置及び修繕の際に道路照明灯の灯具をLED化に努めております。平成28年3月末現在で市内の道路照明灯の約64%がLED照明となっております。今後とも地元自治会等のご意見を踏まえ、道路照明灯の未設置箇所の解消に努め、安全で安心なまちづくりを進めてまいりますので、ご理解を賜りたいと存じます。以上です。

○奈良美帆子模擬議長 続けての質問はありませんか。(8番 小里 凌模擬議員「ありません。ありがとうございます」と言う)

以上で小里 凌模擬議員の質問を終了いたします。

9番 山崎洸太模擬議員の発言を許します。

〔9番 山崎洸太模擬議員登壇〕

○9番 山崎洸太模擬議員 模擬議員の山崎洸太です。私からは、越谷市の教育についての質問をい

たします。

近年全国の市町村では、グローバル化や情報化が進む中で、各市町村の学校教育を充実させ、人づくりに重点を置くようになってきていると聞いています。教育は、本来日本では文部科学省が定めたものによって行われていますが、それだけでは現在の日本が抱えている少子化等の問題を解決できる人材はなかなか出てこれないものと考えております。グローバル化や情報化に基づいて、授業にタブレットを導入しているところもあれば、地域のことをよりよく知り、その地域を好きになって、将来その地域を活性化させようとするところもあると聞きます。グローバル化や情報化が進めば、生活が便利になって、世界ともより密接になる可能性もありますし、地域活性化は過疎地域に人を呼び込むなどの効果を得たという結果があるとも聞いております。



越谷市は、市内を南北に走る東武スカイツリーラインが東京メトロの日比谷線、半蔵門線と直通しているということもあって、都心に向かうに大変便利になっており、人口が増加傾向にあると聞きます。増加傾向にあるとすれば、都心に向かうサラリーマンの家族が移り住んできて、子供の数がふえて、教育が盛んになり、現在越谷市内には合計で46もの小中学校があると聞いております。そして、それぞれの小中学校の中にも、その学校にしかない特色があると思います。

越谷市は、市内を南北に走る東武スカイツリーラインが東京メトロの日比谷線、半蔵門線と直通しているということもあって、都心に向かうに大変便利になっており、人口が増加傾向にあると聞きます。増加傾向にあるとすれば、都心に向かうサラリーマンの家族が移り住んできて、子供の数がふえて、教育が盛んになり、現在越谷市内には合計で46もの小中学校があると聞いております。そして、それぞれの小中学校の中にも、その学校にしかない特色があると思います。

そこで、私が質問したいことは、現在越谷市内の小中学校においてそれぞれほかの市町村にない取り組みなどをやっておりますでしょうか。自分は、将来教員として仕事をしたいと思っており、その教員として動くときにそれぞれの市町村の教育の仕組みなどを知っておれば、より教育のことに興味を持って活動できると思い、またその生徒や児童たちにとってもよりよいメリットがあると考えております。ということなので、この質問をさせていただきます。よろしく申し上げます。私からの質問は以上とさせていただきます。

○奈良美帆子模擬議長 ただいまの質問に対し、工藤秀次議員の答弁を求めます。

〔工藤秀次議員登壇〕

○工藤秀次議員 それでは、ただいまの山崎模擬議員さんのご質問にお答えさせていただきます。

小中学校におけるほかの市町村にはない政策とのお尋ねですので、越谷市教育行政重点施策の中から学校教育にかかわる部分についてお答えをいたします。

まず、ICTを活用した教育です。近隣の市町村でもパソコンを設置しておりますが、本市ではそれ以外に各教室からインターネットに接続できる環境を整え、全ての小中学校のフロアに大型テレビとタブレットとしても使えるパソコンを配備し、デジタル教科書やインターネットを活用したよりわかりやすい授業に努めております。

また、本市独自の教育活動として、越谷生物多様性子ども調査を実施しております。学校に設置

をしておりますビオトープや学校周辺の自然環境を活用した環境教育を推進するための指標生物調査プログラムです。専門家による学習支援を受け、市内全小学校が参加し、その調査結果を分析することなどにより環境の現状を把握するとともに、関心を高めることができました。また、児童生徒の学習活動をより豊かに確かなものにするために、児童生徒の学習をさらに深め、読書活動の充実を図るための学校司書の配置、また特に支援を要する児童生徒がよりよい学校生活を送ることができるように、特別支援教育支援員の配置などを行っています。

また、就学援助制度では、全児童生徒の保護者に対しまして年度当初にリーフレットを配布するなど制度の周知に努めるとともに、申請受け付けは学校での受け付けを初め、市役所内に特設会場を設けるなど、保護者の利便性を高めた取り組みを進めているところです。また、児童生徒が安全に安心して学習に取り組むことのできる環境整備の一環として、平成29年10月稼働を目指して市内全小中学校の普通教室にエアコンを整備します。

いずれにいたしましても、越谷市の児童生徒が生き生きと夢に向かって輝くことができるよう、私も一議員としてさまざまな教育施策を支援してまいります。以上です。

○奈良美帆子模擬議長 続けての質問はありませんか。(9番 山崎洸太模擬議員「ありません。ありがとうございます」と言う)

以上で山崎洸太模擬議員の質問を終了いたします。

10番 井坂桃菜模擬議員の発言を許します。

〔10番 井坂桃菜模擬議員登壇〕

○10番 井坂桃菜模擬議員 模擬議員の井坂です。議長の許可をいただきましたので、参議院選挙における未成年の投票率について質問いたします。

ことし6月に公職選挙法が改定され、選挙権年齢が18歳以上となり、そして7月に参議院選挙が行われ、18、19歳が投票できるようになりました。高校、大学、専門学校などに通う学生や仕事をしている社会人の方なども新たな有権者となっています。全国で見ると、この未成年者の数は全有権者の約2%に当たるそうです。小さな数字ではありますが、大きな変化と言えらると思います。私は、まだ16歳で、高校生のうちに選挙に行くことができません。しかし、ニュースで選挙についていろいろ見たり聞いたりしていくうちに、未成年の選挙について関心を持つようになりました。選挙というものは、今まで大人の中の世界だけでなっているものだと思っていました。ですが、今回年齢が引き下げられたことによって、より身近なものへと感じるようになりました。

そこで、18歳以上の有権者の参議院選における投票率についてお尋ねします。私の周りで選挙に



ついて話題が上がることは余りありませんでした。やはり全員が興味を示してはならず、まだ18歳ではないからといって流されることもありました。それなら、実際にことし新たに有権者となった人たちはどうだったのだろうと思い、この質問事項にしました。模擬議会に参加するのは貴重な体験だと思うので、この機会にぜひ聞いておきたいと思いました。

未成年の選挙となり、年齢が引き下げられたことにより、いいことやよくないこともあったと思います。若者の意見を取り入れることによって新しい発見があったり、政治について興味を持ち始めた人も少なからずいると思います。もしよろしければ、今後の未成年の選挙についての意見を少しでもお聞きできたらと思います。以上です。

○奈良美帆子模擬議長 ただいまの質問に対し、松田典子議員の答弁を求めます。

〔松田典子議員登壇〕

○松田典子議員 それでは、ただいまの井坂模擬議員さんのご質問にお答えをいたします。

ことし7月に行われた参議院議員選挙では、18歳選挙権が実現し、これからの日本を担う若い皆さんの声が政治に届けられました。越谷市においては、全体の投票率50.65%に対し、18歳は53.30%、19歳は44.54%、18歳と19歳を合わせて48.93%という結果でした。越谷市の選挙管理委員会では、選挙権年齢の引き下げに伴い、ことしに入り選挙の仕組みや投票することの意義といったことを職員が学生に説明する選挙出前講座を市内の高校で実施しています。また、ことしの5月には、越谷市で新たに有権者となる18歳と19歳の方約6,500人全員に、選挙のマスコットキャラクターがプリントされたクリアファイルとともに選挙ガイドブックをお送りいたしました。さらに、選挙運動期間中には、候補者の氏名や経歴、公約などが書かれた選挙公報を市内の大学や高校の図書室や食堂などに備え置くという試みも実施したところです。こうした新たな取り組みによって、多くの若い皆さんに選挙への関心を持ってもらうことができたのではないかと考えています。引き続き学校や関係機関と連携を図り、未成年の皆さんの投票率の向上に努めていく必要があると考えています。

また、一方では、20歳代を初めとした若い皆さんの投票率は、18歳、19歳に比べて低いという結果でした。このようなことから、参議院選挙後の8月に20歳代の方の選挙に対する意識を探ることを目的に、公務員になることを目指して越谷市役所で就業体験を行っていた大学3年生と選挙管理委員会の職員が意見交換するという試みを行いました。参加した大学生からは、政策の違いがわかりづらいことも若者の投票率が低い原因ではないか。たとえ白票でも投票しなければ、自分たちの年代層の投票率は上がらないし、結果として政策に反映されない。若者の投票率を上げるためには、友人同士でSNSを活用して投票を呼びかけ合うことが一番効果があるといった意見が出されました。このような意見を参考に、多くの若い皆さんに選挙への関心を持っていただき、そしてしっかり投票してもらえよう、私も一議員として今後も努力していきたいと考えております。以上です。

○奈良美帆子模擬議長 続けての質問はありませんか。(10番 井坂桃菜模擬議員「ありません」と言う)

以上で井坂桃菜模擬議員の質問を終了いたします。

12番 仁科佑真模擬議員の発言を許します。

〔12番 仁科佑真模擬議員登壇〕

○12番 仁科佑真模擬議員 模擬議員の仁科です。議長の許可をいただきましたので、入学準備金貸し付け制度についてお伺いいたします。

越谷市がとり行っている進学のための制度である入学準備金貸し付け制度についてお尋ねします。この制度は、市内在住で高校や大学等に進学を希望している方の保護者に入学準備金を無利子で貸し付ける制度です。無利子は助かると言っている私の友人の親御さんもいました。しかし、返済期間に私は疑問点があります。それは、卒業後6カ月据え置きという部分です。内定をもらい、就職した方はいいのですが、内定がもらえなかった方には6カ月後から始まる返済は厳しいのではないかと考えます。また、借金のため無理にいわゆるブラック企業に入り、結果生活が不安定であるということも考えられます。ですから、私は据置期間の延長もしくは卒業後ではなく、内定後もしくは入社後に変更するのを提案いたしますが、いかがお考えでしょうか。以上で質問とさせていただきます。



○奈良美帆子模擬議長 ただいまの質問に対し、工藤秀次議員の答弁を求めます。

〔工藤秀次議員登壇〕

○工藤秀次議員 それでは、ただいまの仁科模擬議員さんのご質問にお答えをいたします。

越谷では、ひとしく教育を受ける機会を提供することを目的とし、高等学校、大学等への入学を希望する生徒の保護者で、入学資金の調達が困難な方を対象に、無利子で入学準備金の貸し付けを行っております。貸付金の返済は、進学希望者が進学した学校を卒業後、半年間経過してから始まり、5年以内に年賦または半年賦により償還いただいております。平成25年度は39件、平成26年度は64件、平成27年度は40件の貸し付けを実施し、入学時にかかる保護者の経済的負担の軽減を図りました。

本制度は、いわゆる奨学金のように在学中の学費を補うものではなく、あくまでも入学時にかかる費用負担の軽減を目的としているものです。そのため入学準備金の貸し付け、返済ともに保護者を対象としており、現在のところ進学者に対しては返済の義務を課しておりません。また、本市の入学準備金の返済に際して、当初の償還期限では納付が困難な方については分割納付等の相談に応じるなど、それぞれの状況にあわせた対応も行っております。

ご質問の入学準備金貸し付け制度の返済据置期間の延長につきましては、より利用しやすい制度

を検討する上での参考とさせていただきます。いずれにいたしましても、経済的理由により子供たちの教育機会に格差が生じないように、私も一議員として引き続き支援をしてまいりたいと思います。以上です。

○奈良美帆子模擬議長 続けての質問はありませんか。(12番 仁科佑真模擬議員「ありません」と言う)

以上で仁科佑真模擬議員の質問を終了いたします。

13番 相澤達也模擬議員の発言を許します。

〔13番 相澤達也模擬議員登壇〕

○13番 相澤達也模擬議員 模擬議員の相澤達也です。議長の許可をいただきましたので、訪日外国人観光客への対応について質問をいたします。

2020年に東京オリンピック・パラリンピックの開催が予定されています。それに伴い、東京都だけではなく、この越谷市にも訪日外国人観光客の増大が見込まれると考えられています。また、越谷市では、年々外国国籍者数もふえております。そこで、越谷市がこれからの訪日外国人観光客の増大にどう対応していくのか、お尋ねいたします。



まず、私が調べた越谷市の訪日外国人観光客に対する現状を述べたいと思います。越谷市観光振興計画を見ますと、現在越谷市では訪日外国人観光客を対象としたクールなコンテンツづくりや受け入れ体制の整備などを行っております。実際に私は、越谷市の中心である越谷駅前を歩いて回ってみました。駅前には、外国人向けの案内板が多数見受けられましたが、少し駅前を離れるとほとんどございませんでした。

このような現状を踏まえた上で、私は越谷市の訪日外国人観光客に対する課題を幾つか考えました。1つ目は、越谷市全体で見て外国語案内板やピクトグラムが少ないということであります。2つ目は、無料公共無線LANの整備が進んでいないということであります。観光庁の調査によると、外国人が旅行中に困ることの第1位が無料公共無線LAN環境の提供、第3位が目的地までの公共交通機関の情報だそうです。しかし、ほかにもまだ多く、訪日外国人観光客の受け入れ整備は必要であると思います。しかし、予算は限られておりますので、私はまずこの2つの整備から始めていくべきであると考えます。

このように私の主観的な意見を述べさせていただきますと、現段階では越谷市の訪日外国人観光客に対する対応は不十分のように感じます。これからの訪日外国人観光客の増大に向け、どのような政策を行い、対応していくのか、お尋ねいたします。以上になります。

○奈良美帆子模擬議長 ただいまの質問に対し、大野保司議員の答弁を求めます。

〔大野保司議員登壇〕

○大野保司議員 それでは、ただいまの相澤模擬議員さんのご質問にお答えいたします。

訪日外国人観光客の対応についてのお尋ねですが、東京オリンピック・パラリンピックの開催決定を契機に訪日外国人客は年々増加しております。2015年の訪日外国人旅行者数は、前年を約600万人上回る1,937万7,000人となり、過去最高を記録いたしました。このような状況の中で、政府は明日の日本を支える観光ビジョン構想会議を開催し、訪日外国人観光客を2020年までに約2,000万人としていた目標を4,000万人とし、2030年には6,000万人とすることを決めております。

本市は、オリンピック・パラリンピックの開催地である東京からのアクセスもよく、自然、歴史、伝統文化や食を通じた体験型観光メニューを初め、日本庭園花田苑、さらには日本文化伝承の館こしがや能楽堂など、外国人の嗜好に合った観光資源が多く存在しており、訪日外国人観光客を対象としたインバウンド観光には大きな可能性があります。訪日外国人観光客の受け入れについては、多言語対応の改善、強化、公共無線LAN環境の整備促進、公共交通機関による快適、円滑な移動のための環境整備などが課題と言われております。その点については、先ほどのご指摘のとおりだと思います。また、多様なニーズへの対応や情報提供の充実には、観光にかかわる人材の育成も必要です。特に市外から来た方々が宿泊できるホテルの整備については私も重要と考え、昨年の6月議会で一般質問させていただいたところです。

訪日外国人旅行者を誘客するインバウンド観光は地域の活性化につながると考えており、その受け入れ体制の整備については私も議員の立場から引き続き調査、研究していきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

○奈良美帆子模擬議長 続けての質問はありませんか。(13番 相澤達也模擬議員「はい、議長」と言う)

13番。

○13番 相澤達也模擬議員 それでは、再質問させていただきます。

先ほど外国人に対するホテルの整備ということがありましたけれども、質問した際に、どのような返答が返ってきたのか、お聞かせいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

○奈良美帆子模擬議長 ただいまの質問に対し、大野保司議員の答弁を求めます。

○大野保司議員 ただいまのご質問にお答えいたします。

ホテルの整備ということについては、外国人を対象にしたわけではないのですけれども、ご存じのとおり、越谷にはまだ大きなホテルがないわけです。一方、レイクタウンなどを整備して、年間5,000万人、外国人というわけではないのですけれども、越谷を訪れる人がいらっしゃるといようなことが言われております。そういったことから、重要な課題だということで市としては認識しているということですが、その点についてはまだまだ調整していかなければいけない。一

方で、オリンピック・パラリンピックというのは2020年に迫っているわけですから、それが一つのきっかけになるよう、私のほうとしてもいろいろな取り組み、市への働きかけも含めやっていきたいと、そのようにやりとりをさせていただいたところでございます。

○奈良美帆子模擬議長 続けての質問はありませんか。(13番 相澤達也模擬議員「ありません。ありがとうございます」と言う)

以上で相澤達也模擬議員の質問を終了いたします。

14番、安藤裕也模擬議員の発言を許します。

〔14番 安藤裕也模擬議員登壇〕

○14番 安藤裕也模擬議員 模擬議員の安藤です。議長の許可をいただきましたので、SNSの利用について質問いたします。

近年大型台風、地震などの予測できない自然災害が多くなってきています。そこで、起こるのが道路などが通れなくなったりすることによる渋滞などのパニックです。そこで活用できるのが、ツイッターなどのSNSだと思います。現在越谷市の公式ツイッターでは、給食食材の情報や越谷市のイベントなどの情報がホームページに更新されたことがわかるようなツイートや、大規模災害時の緊急情報などがツイートされていますが、近隣の市ではそれに加えて自然災害での通行どめや台風の状態を細かくツイートしたり、画像なども入れてツイッターで情報を市民に伝えています。越谷市もSNSなどで細かく情報を市民に発信していただいたら、私たち市民も越谷市での生活がもっとよりよくなり、越谷市に住む人もふえると思います。



そして、これから自然災害が多くなり、それに伴う交通の乱れなどが起きたとき、少しでも混乱を抑えるために、SNSのような多くの人々が利用しているものを、このような自然災害対策に越谷市も情報をより早く、もっと多くの人に発信するために、SNSを活用してはどうかと考えます。以上です。

○奈良美帆子模擬議長 ただいまの質問に対し、福田 晃議員の答弁を求めます。

〔福田 晃議員登壇〕

○福田 晃議員 それでは、ただいまの安藤模擬議員さんのご質問にお答えをいたします。

本市のツイッターをフォローしていただき、ありがとうございます。ツイッターの越谷市公式アカウントは、平成24年2月から運用を開始いたしました。市ホームページの新着情報を初め、越谷特別市民ガーヤちゃんの情報、大規模災害時などにおける緊急情報の発信のほか、広報広聴課職員が市内を取材した際に撮影した写真を掲載しており、平成28年9月末時点で約6,000人の方にフォローしていただいております。

SNSを利用した災害情報の提供についてのお尋ねでございますが、災害時の情報提供につきましては、被害を最小限にするため、市民に情報を迅速かつ的確に提供することが大変重要であると考えています。このため、市では防災行政無線や市ホームページ、cityメール、ツイッターなどさまざまな媒体を組み合わせた情報伝達体制を整えております。また、地方テレビ局の株式会社ジェイコム北関東、インターネット情報配信サービスのヤフー株式会社と災害時における情報の配信に関する協定を締結し、必要により速やかに災害情報の配信が行える体制を整えております。さらに、埼玉県においてテレビ、ラジオ、インターネットなど多様なメディアを通じて避難情報や避難所開設状況などを一括して即座に配信できる、いわゆるLアラートが整備されたことから、市でも県のシステムを活用し、情報配信を開始しております。

加えて新たな取り組みとして、被害状況や通行どめの状況などを一元的に管理し、市民にいち早く正確な情報配信できる越谷市災害情報管理システムを平成28年2月から運用を開始しております。本システムでは、市ホームページやcityメール、ツイッターなどの各種の情報発信媒体と連動することで、これまでよりも迅速かつ的確な情報発信が可能となっております。具体的には、本システムを活用し、ことしの8月に発生した台風7号からツイッターを初め市ホームページやcityメールによる注意喚起を実施するとともに、市ホームページにおいて通行どめの状況など地図情報と関連づけ、情報提供を実施しております。

今後につきましては、私も一議員としてさまざまな環境下にある市民に対し、防災情報を確実に伝達できるよう、SNSの活用を初め既存の情報伝達手段のそれぞれの特性を生かしたきめ細やかな情報提供が行えるよう働きかけてまいります。

○奈良美帆子模擬議長 続けての質問はありませんか。(14番 安藤裕也模擬議員「はい、議長」と言う)

14番。

○14番 安藤裕也模擬議員 再度質問させていただきます。

今越谷市の公式ツイッターのフォロワーは、先ほど言ったように6,000人です。この数は、近隣の市と比べて変わらないのですが、近隣の市は越谷市より人口が少なく、フォロワーの数の割合としたり多いです。この越谷市の公式ツイッターのフォロワーの割合をふやすために、どのようにこれから改善していきますか。

○奈良美帆子模擬議長 ただいまの質問に対し、福田 晃議員の答弁を求めます。

○福田 晃議員 それでは、ただいまの安藤模擬議員さんの再質問にお答えをいたします。

ツイッターのフォロワー数ということでご質問をいただきました。確かに越谷市も努力をしておりますが、まだまだこれからやれることはたくさんあると思います。しかしながら、これをやればフォロワー数がふえるということはなかなか決定打は見つからないのですが、例えば先日星奈津美

さん、市民栄誉賞を取りましたが、そういうときに多く発信するとか、何かイベントがあったときにできるだけ皆様に拡散をしていただき、越谷市はおもしろい情報を発信しているなというようなことでどんどん拡散をしていただくということが重要なのではないかというふうに思っております。そして、今この場にいらっしゃる学生議員さんのように、SNSを活用してくださる若い世代の皆様には何とか働きかけて、そこからフォロワー数をふやしていけるよう、私も一議員として常に情報発信を心がけたいと思います。以上です。

○奈良美帆子模擬議長 続けての質問はありませんか。(14番 安藤裕也模擬議員「はい、議長」と言う)

14番。

○14番 安藤裕也模擬議員 今の公式ツイッターでは、ホームページの情報が更新されるたびにホームページに移れるようになってきていると思うのですが、その内容をツイッターでまず簡単に載せてから、それを詳しく見るためにホームページに行けるようにしたら、もっと利用者がふえると思うのですが。以上です。

○奈良美帆子模擬議長 ただいまの質問に対し、福田 晃議員の答弁を求めます。

○福田 晃議員 ご指摘ありがとうございます。今言った意見は非常に参考にさせていただくようなことだと思います。

確かに今は単文があって、リンクをするという形をとっておりまして、越谷市では聞いたところによりますと、ホームページが一番正しい情報が載っているというようなスタンスをとっているのですが、確かにホームページに誘導する前に、どこまで出せばホームページを見てもらえるかというところは非常にいいご指摘だと思いますので、私も調査研究しまして、行政執行部と話し合いながら、どういう情報がいいのかということは今後検討してまいりたいと思います。ご指摘ありがとうございます。

○奈良美帆子模擬議長 続けての質問はありませんか。(14番 安藤裕也模擬議員「ありません。ありがとうございます」と言う)

以上で安藤裕也模擬議員の質問を終了いたします。

15番 渡部拓海模擬議員の発言を許します。

〔15番 渡部拓海模擬議員登壇〕

○15番 渡部拓海模擬議員 模擬議員の渡部拓海です。議長の許可をいただきましたので、越谷レイクタウン事業について質問をいたします。

昭和63年4月にレイクタウン整備事業が国の新規事業として創設されて以来進められた越谷レイクタウン事業は、ランドマークである大相模調節池の工事が2010年に終了し、新町名、新地番が実施されました。私がレイクタウンに引っ越してきてから約5年がたちますが、その間に周りの景観

は大きく変わりました。日本最大級のショッピングセンターと銘打たれ、高い集客力を維持し、そして年々その力をますます強めているイオンレイクタウンを軸に開発が進むまちの変化を、その内側から間近に見てきました。

レイクタウンに引っ越してきた5年前は、イオンレイクタウン以外何もないと言ってもいいまちでしたが、当時からレイクタウン地区の至るところで土地の造成が行われ、将来の発展のための準備が着実に進んできました。その後の変化は目覚ましく、道路が整備され、次々にマンションや戸建て住宅街がつくられ、新しい高校も設置されました。電線の地中化が進められ、まちとしての景観の整備も進展しました。その結果、水と親しむまち、つまり親水文化創造都市として全国から注目を集めるようになり、リブコムアワード2009や都市景観大賞を受賞するまでになっています。



一方で、実際にレイクタウンに住む者として感じる問題点もあります。越谷レイクタウンの柱である大相模調節池のことです。大相模調節池は、大雨や洪水の危険が生じた際に、それを未然に防ぎ、平時は親水文化創造都市のシンボルとして、ビオトープなど市民の活動の場として利用されていることになっています。しかし、大雨が降ったとき、調節池のおかげで浸水は免れたことはしばしばありますが、平時については現在は幾分改善したものの、水質汚染が進行し、ビオトープとは言いがたい状況の時期がありました。水生生物が活動している気配もなく、親水文化創造都市のシンボルとしてはみなしにくい時期でもありました。特にこの時期は、レイクタウンを紹介するパンフレットなどに書かれたレクリエーション等はいづらく、憩いの場としての機能がなかったように思います。

以上のことを踏まえ、越谷レイクタウン事業について計画当初に見込んだ効果が生まれているのか、また今後の越谷レイクタウン地区のあり方についてお尋ねいたします。

○奈良美帆子模擬議長 ただいまの質問に対し、細川 威議員の答弁を求めます。

〔細川 威議員登壇〕

○細川 威議員 それでは、ただいまの渡部模擬議員さんのご質問にお答えいたします。

越谷レイクタウン事業についてのお尋ねでございますが、越谷レイクタウン地区は全国で初めて治水対策を目的とする河川事業と新市街地整備を一体的な事業として行う越谷レイクタウン特定土地地区画整理事業として、平成11年から平成26年まで独立行政法人都市再生機構によって施工されました。本地区は、埼玉県東南部地域の中核都市にふさわしい都市機能の充実を図るため、中心核である越谷駅周辺及び南越谷駅周辺地区を補完する副次核の一つに位置づけられており、地区内人口につきましてはまち開き前は約50人でしたが、平成28年11月1日には約1万3,300人となり、順調

な発展をしております。

本地区に建設された大相模調節池につきましては、1級河川元荒川に流れ込む大量の雨水の一部を一時的にため、浸水被害を及ぼすピークの流量を抑え、被害などを和らげる効果が期待されており、最大で水深5メートル、水量で120万立方メートル、東京ドームのおよそ1杯分までの水をためることができます。本事業による効果としましては、平成27年9月9日から11日にかけて襲来した台風18号時には、総雨量402.0ミリの記録的な降雨がありましたが、大相模調節池の水深が4.21メートルまで上昇し、地域の洪水被害の軽減につながりました。今後も元荒川流域を初め、中川流域全体の治水安全度のさらなる向上に寄与するものと、大いに期待をしております。

また、平成20年及び平成23年にオープンしたイオンレイクタウンkaze、mori、レイクタウンアウトレットは、現在では年間来場者数が5,000万人を超え、店舗内で開催される多数のイベントやテレビ局の撮影などが本市のアピールとなり、水辺空間を活用したにぎわいの創出につながっております。今後につきましても、官民が一体となり、積極的にまちづくりに取り組むことで、当地区が本市の顔としてますます発展していくよう努めてまいりますので、ご理解を賜りたいと存じます。以上です。

○奈良美帆子模擬議長 続けての質問はありませんか。(15番 渡部拓海模擬議員「はい、議長」と言う)

15番。

○15番 渡部拓海模擬議員 再質問をさせていただきます。

越谷レイクタウン地区を副次核と位置づける一方で、越谷駅周辺を中核部分と位置づけるということですが、この2つの地区の連携の具体的な方策等についてあれば、お話を伺いたいと思います。よろしくお願いします。

○奈良美帆子模擬議長 ただいまの質問に対し、細川 威議員の答弁を求めます。

○細川 威議員 越谷駅が今現在中心核で、レイクタウン、また南越谷駅周辺が副次核となっております。

連携という意味では、縦の線でいいますと、越谷駅、新越谷駅は東武線につながっておりますし、また横の線で見ますと、鉄道で見ますと南越谷とレイクタウン駅がつながっております。そういった意味では、非常に人口の流動がありますし、また人が動くことで経済的な効果も生まれます。越谷が中心核なのですけれども、さまざまな事業、総合振興計画も含めて越谷が中心核という形で計画が全てスタートしております。そういった意味で副次核、また中心核と連携を取りながら、今現在さまざまな計画が進んでおりますので、そういった連携のとり方をしているということで、どうぞご理解いただきたいと思います。以上です。

○奈良美帆子模擬議長 続けての質問はありませんか。(15番 渡部拓海模擬議員「ありません。あ

りがとうございました」と言う)

以上で渡部拓海模擬議員の質問を終了いたします。

◎ 休 憩 の 宣 告

○奈良美帆子模擬議長 この際、暫時休憩いたします。

(休憩 12時03分)

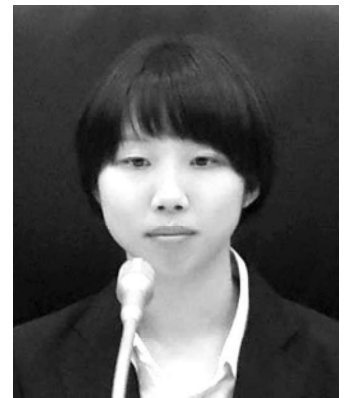


(開議 13時17分)

◎ 開 議 の 宣 告

○清水さくら模擬副議長 休憩前に引き続き会議を開きます。

私は、午後からの進行を務めさせていただきます模擬議会の副議長、清水さくらと申します。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。



◎ 市 政 対 する 一 般 質 問

○清水さくら模擬副議長 市政に対する一般質問を続けます。

16番、鶴見 喬模擬議員の発言を許します。

〔16番 鶴見 喬模擬議員登壇〕

○16番 鶴見 喬模擬議員 模擬議員の鶴見 喬です。議長の許可をいただきましたので、橋梁の耐震化率について質問いたします。

近年、国内において東日本大震災を初め熊本地震、新潟中越地震など甚大な被害を及ぼす大規模な地震が多発しています。ここ関東にも大きな地震が起きる可能性は高く、その際には越谷市も大きな被害を受けることが予想されます。地震が発生すれば、大きな混乱を招くことは避けられないでしょう。火災や建物の倒壊など、一刻を争う状況にもなるかもしれません。そんな中、越谷市内には中川、古利根川、元荒川など大小多くの河川が流れています。地域の避難所に向かう際、橋を渡っての避難ということも多く考えられます。実際、私の通う越谷北高校も避難場所に指定されており、住民の方々の中にはそばを流れる新方川を渡って避難される方もおります。つまり橋とは、大事な避難経路なので



す。

しかしながら、越谷市の分野別計画大綱3によると、橋梁の耐震化率は平成26年度現在18.1%となっています。これは、5本の橋があった場合、1本の橋だけしか耐震化されていないということです。目標値として、平成32年までに43.1%となっていますが、これでも半分以下です。確かに1本の川にかかる橋は1つではありません。現在の割合からいっても、市内に流れる1河川につき何本かは耐震化されているでしょう。しかし、いざ地震が発生し、慌てている状況で避難場所に指定されている施設に向かおうとしたところ、ふだん使う橋が壊れていたら、どうでしょう。混乱するに違いありません。また、その橋を迂回しても、別の橋は混雑していて、逃げるのが遅くなるかもしれません。壊れているのに気がつかず、実際に渡ってみたところ、けがをする場合も考えられます。いずれにしましても、関東地方に大地震が発生した際、混乱を避け、被害を最小限にとどめるためには、市内にかかる橋梁の耐震化が必要だと考えます。予算等あるかと思いますが、土木等の知識のない私個人の率直な意見としては、目標値は低いのではないかと考えます。このことに関して意見をお聞かせください。以上です。

○清水さくら模擬副議長 ただいまの質問に対し、畔上順平議員の答弁を求めます。

〔畔上順平議員登壇〕

○畔上順平議員 それでは、ただいまの鶴見模擬議員さんのご質問にお答えいたします。

本市の橋梁の耐震化につきましては、平成7年1月に発生した阪神・淡路大震災をきっかけとして、平成8年度より地震時の揺れにより橋桁が受け台から落ちるほど重大な事案にならないよう、橋梁落下防止対策は既に完了しております。しかしながら、平成23年3月に東日本大震災が発生し、各地で多くの橋梁が損壊したことや、今後関東地方においてもマグニチュード7クラスの大規模な地震が想定をされていることから、平成25年度に越谷市橋梁耐震化の基本方針を策定いたしました。その基本方針に基づき、地震の揺れに対する落橋、倒壊等の甚大な被害を防止するため、橋長15メートル以上の重要橋梁及び緊急輸送道路に指定されている道路上にかけられている44橋を対象に、橋脚補強を含めた既設橋梁の耐震化を進めております。平成27年度末の耐震化率は、上部、下部の耐震補強が完了した橋では18.1%でございます。

耐震化の対策項目としては、レベル1地震動とレベル2地震動の2つの地震動の対策をしております。レベル1地震動とは、震度5弱、5強程度で発生する可能性が高い地震動をいい、橋の健全性を損なわない性能を有するような対策を実施しております。レベル2地震動は、震度6弱から7程度で大規模な地震動をいい、機能保持のために鉄板を敷いて応急復旧できる程度の損傷にとどめることができるような対策を実施しております。さらに、橋の延命化を図るため、越谷市橋梁長寿命化修繕計画もあわせて行っております。また、日ごろの対応としまして、震災時における橋梁の緊急点検実施要領に基づき、震度4以上の地震が発生した場合に点検を行い、道路利用者の安全確

保に努めております。ふぐあいがあった場合は、速やかに修繕を行う体制で臨んでおります。

橋梁の耐震化工事については、1橋当たりにも多額の工事費を要することから、今後につきましても補助金を積極的に活用し、対象橋梁の順次耐震化に努めてまいります。

○清水さくら模擬副議長 続けての質問はありませんか。(16番 鶴見 喬模擬議員「はい」と言う) 16番。

○16番 鶴見 喬模擬議員 再度質問させていただきます。

先ほど震度4以上の地震があった際に点検するとありましたが、起きる前のふだんのときに点検などはしたりするのでしょうか。よろしくをお願いします。

○清水さくら模擬副議長 ただいまの質問に対し、畔上順平議員の答弁を求めます。

○畔上順平議員 それでは、ただいまの再質問に対しましてお答えをいたします。

私も日ごろどれくらい点検をしているのかという詳細の回数ですとか日数については把握はしておりませんが、緊急時以外でも日ごろからの道路の整備や点検を市役所の中ではしております。以上でございます。

○清水さくら模擬副議長 続けての質問はありませんか。(16番 鶴見 喬模擬議員「ありません。ありがとうございました」と言う)

以上で鶴見 喬模擬議員の質問を終了いたします。

続いて、17番 原 智宏模擬議員の発言を許します。

〔17番 原 智宏模擬議員登壇〕

○17番 原 智宏模擬議員 模擬議員の原 智宏です。議長の許可をいただきましたので、越谷市第5次行政改革について質問いたします。

近年我が国では、地方分権の動きが活発化しています。このことにより、越谷市に在住の方またはご通学、ご通勤の方などが最も身近な行政である市として、自主的な、自律的な、また地域それぞれの特色があるような持続的な発展、地域経営がますます求められてきます。

また、これから急激に進む少子高齢化社会、人口減少時代の到来、また市民のニーズの多様化に的確に対応するには、とても効率的な市の

経営が求められてきます。そこで、ただ単に行政改革をして、公共事業の縮小や経費削減を行うだけでは、これから先に来るいろいろな問題の波を乗り越える力は発揮されません。また、先ほどの質問にありましたように、図書館の機能の低下を引き起こされるかもしれません。そこで、今現在住まわれている方、そして未来に住まわれる方に質の高い、そして満足度の高い公共サービスの提供をいかに適切に行っていくかが、行政改革の基本となります。

この越谷市第5次行政改革では、今までに実行してきた第4次行政改革の流れを継承し、最少の



お金で最大の効果が上げられるように進んできたと思います。また、内容を策定する過程では、公募した市民などで構成される越谷市行政経営審議会での審議やパブリックコメントを通じていただいた意見を参考としながら手続を進められてきました。そして、その市民と合同で策定されて進んできた第5次行政改革は、5年間の工程を昨年度終了しました。そこで、この第5次行政改革は、この5年間でどのような結果を残し、越谷市全体にどのようなものを残したのか、質問したいと思います。以上です。

○清水さくら模擬副議長 ただいまの質問に対し、福田 晃議員の答弁を求めます。

〔福田 晃議員登壇〕

○福田 晃議員 それでは、ただいまの原模擬議員さんのご質問にお答えをいたします。

第5次越谷市行政改革は、事務事業の徹底見直し、定員管理等の適正化と職員の能力開発等、公平、透明で市民満足度の高い行政サービスの推進、経費の節減、合理化等財政の健全化の4つの主要推進事項を柱に、当初に計画した取り組みが26事業、追加した取り組みが23事業の合計49の事業に組み込み、このうち実施できなかったものは1事業でした。その1事業とは、市内の砂原に瓶、缶、不燃ごみ等を破碎、選別して資源化する越谷市リサイクルプラザという市のリサイクルの拠点施設がありますが、そこへ店舗や会社などの事業に伴って排出される事業系の不燃ごみを搬入する場合の処理手数料の改定を見送ったというものです。当初、事業系の不燃ごみ10キログラム当たり100円の手数料を210円に引き上げる計画でしたが、搬入量が減少していることなどから、総合的な廃棄物の減量等に関する事項を審議する越谷市廃棄物減量等推進審議会の審議結果を踏まえ、改定を見送りました。

次に、実施できた取り組みのうち、市の支出の削減につながった主なものとしては、①保育所の整備について、民間活力を活用して整備したことで約24億円、②高圧電力を引いている市の施設の電気契約をより安価な電気事業者に変更したことで約4,000万円、③小児の夜間急患診療所と成人の夜間急患診療所を越谷市保健所内に移転、統合したことで約2,000万円、④道路照明灯を省電力のLED灯に交換し、リース方式にしたことで約720万円などがあります。

また、市の収入の増加につながった主な取り組みとしては、公共下水道の使用料を1立方メートル当たり消費税込みで84円から105円に改定し、経営の健全化を図ったことで約5億9,000万円のほか、市税その他の債権の回収を強化して、その収納率の向上を図りました。こうした取り組みにより、5年間で約34億8,000万円の財政的効果を上げることができました。第5次越谷市行政改革の実績は以上です。

○清水さくら模擬副議長 続けての質問はありませんか。(17番 原 智宏模擬議員「はい、議長」と言う)

17番。

○17番 原 智宏模擬議員 今年度より新たに第6次行政改革が行われていますが、前の行政改革との違いは何でしょうか、お答えください。

○清水さくら模擬副議長 ただいまの質問に対し、福田 晃議員の答弁を求めます。

○福田 晃議員 ただいまの原模擬議員さんの質問にお答えをいたします。

第5次と第6次行政改革の大きな違いでございますが、昨年度、平成27年度、平成28年度から32年度までを計画期間とする第6次越谷市行政改革大綱の策定に取り組み、平成28年4月に大綱が決定をいたしました。大綱の策定に当たりましては、行政改革などの推進について協議を行う市の行政経営推進本部会議での大綱案の協議の後、公募委員も含む有識者から成る越谷市行政経営審議会に諮問を行い、その後全5回にわたる審議及び市民へのパブリックコメントを踏まえ、28年3月に市長へ答申を行ったところでございます。

また、行政改革の具体的な取り組みである実施計画につきましては、平成28年5月に27項目の取り組みを決定いたしました。第5次行政改革の大綱と異なる点についてですが、行政改革の取り組みの考え方については、事務事業の見直しや組織の簡素化、合理化、経費縮減、財政確保など普遍的なものでございますので、大綱の主要推進事項などの柱の部分につきましては、表現は異なるものの、5次と6次では相違はありません。なお、大綱の具体的な取り組みとなる実施計画事業につきましては、5次の取り組みにはなかったPFIの活用事業、小中学校の空調設備の設置やマイナンバーの利活用の推進、公共施設の老朽化対策に関する取り組み、公共施設等総合管理計画アクションプランの策定と進行管理等が新たに上がっているところでございます。以上です。

○清水さくら模擬副議長 続けての質問はありますか。(17番 原 智宏模擬議員「ありません」と言う)

以上で原 智宏模擬議員の質問を終了いたします。

続けて、18番 佐藤朱莉模擬議員の発言を許します。

〔18番 佐藤朱莉模擬議員登壇〕

○18番 佐藤朱莉模擬議員 模擬議員の佐藤朱莉です。議長の許可をいただきましたので、越谷市の地元野菜の販売について質問をいたします。

近年私の住まいの近くのスーパーマーケットでは、地元野菜の販売コーナーが見受けられます。販売されている野菜については、生産者の名前が記載されており、信頼して購入することができます。場所も入り口付近に設けられることが多く、来店する方の目にとまるように考えられているのではないかと思います。時折実際に生産されている



の方が店頭に出られて、声をかける姿も見受けられ、ご高齢の方などは野菜を選んでもらって購入

されている方もいらっしゃいます。また、生産者の方の顔写真を展示されているところもあり、写真を見ることでより親しみやすく感じ、人と人とのつながりへと発展することが考えられます。このように企業と連携をして購入しやすい環境をつくることはとてもよいことだと思います。

その中で私が問題に思うことは、販売コーナーの規模が小さいことです。道の駅のような越谷市の特産品を多く販売する場所はないかと調べてみると、農産物直売所グリーンマルシェがありました。グリーンマルシェは、約150軒の農家さんが出荷者登録する市内最大の農産物直売所で、新鮮な旬の野菜を初めスーパーマーケットで売られていないような珍しい野菜やお総菜、農産物を使った商品などを多数そろえているそうです。収穫されてすぐに店頭で並べてくれるので、買い物をしている最中でも新たな野菜が運ばれてくることがあり、生産者の方とコミュニケーションをとることができます。しかし、場所が駅から遠く、住宅地からも離れており、ふだんの買い物では利用しづらいと思います。ご高齢の方、小さなお子様がいる方などは、さらに大変かと思われます。地産地消を広めるためにも、生産者の方は自分の商品をアピールすることができ、購入者の方は1年を通して越谷市の農産物を知ることができる場所をもっと大きく、身近な施設として設置することはできないでしょうか。以上です。

○清水さくら模擬副議長 ただいまの質問に対し、細川 威議員の答弁を求めます。

〔細川 威議員登壇〕

○細川 威議員 それでは、ただいまの佐藤模擬議員さんのご質問にお答えをいたします。

現在越谷市内ではスーパーマーケットで地元の農産物販売コーナーのほかに、先ほどおっしゃっておいりましたJA越谷市が運営する農産物直売所グリーンマルシェがあります。現在グリーンマルシェには、約200名の方が出荷者として登録されており、生産者の名前が記載された新鮮な地元農産物や、それを利用した加工品などが出荷販売されております。オープン以来順調に業績が伸びており、昨年度は来客者数が約20万人、総売上額は3億2,000万円に達し、過去最高額の売り上げとなったと伺っております。売り上げのうち、地元農産物の販売額は2億3,000万円と、約70%を占めており、多くの方が地元農産物を購入されていることがうかがえます。

このようにグリーンマルシェは、地産地消の推進拠点として大きな役割を担っております。地元で生産する農作物を新鮮なうちに消費者が購入できることで、食の安全安心につながります。ぜひ若い皆さんも地元の農産物に関心を持っていただき、地元農産物の購入をしてください。

模擬議員さんが通学している埼玉県立越谷総合技術高校では、越谷産のネギを使ったネギポタージュをまるななマーケットや産業フェスタなどの市内のイベントで販売していると伺っています。すばらしい活動ですので、今後も継続して取り組んでいただきたいと思います。

お尋ねの道の駅につきましては、道路利用者のための駐車場やトイレなどの休息施設と、市町村等が整備する各種の地域振興施設とが一体となった施設でございます。整備に当たりましては、地

域活性化を基本とし、交通のアクセス性や観光振興、さらには防災機能など、さまざまな検討が必要となります。また、既に開業している道の駅を見ましても、地元農産物や特産品を販売する場が設置されている例が多く、地域の活性化につながっているものと考えられます。越谷市としましても、首都近郊という地理的特性を生かしながら、既存の観光資源や集客施設との効果的な連携を図り、道の駅の事業化へ向け努力してまいります。以上です。

○清水さくら模擬副議長 続けての質問はありませんか。(18番 佐藤朱莉模擬議員「はい、議長」と言う)

18番。

○18番 佐藤朱莉模擬議員 ご答弁ありがとうございました。それでは、再質問をさせていただきます。

私は、実際にほかの市の道の駅に行ってみたのですが、ご高齢の方が多く見られました。そのことに関して、越谷市では幅広い年代の方に地元野菜を知ってもらい、購入していただくために、何か対策をされていますでしょうか。以上です。

○清水さくら模擬副議長 ただいまの質問に対し、細川 威議員の答弁を求めます。

○細川 威議員 再質問ありがとうございます。

幅広い方に知らせるといことなのですが、学校給食でも地産地消ということで、学校給食で昭和62年からクワイで始まりまして、今ちょっと古い資料なのですがけれども、平成25年の3月現在ではお米を含めて12品目の地場農産物が学校の給食で出されております。これによって、子供たちにも地元の野菜が知られているかと思えます。また、越谷市の商工会議所と連携をとりまして、農商工連携事業というものもスタートしまして、異業種交流などで、そういったネットワークを使って地元の農産物を宣伝しているところでございます。

やはりご高齢の方が道の駅にいらっしゃるといこと、なかなか若い方が地産地消という意味では地元の野菜を買っていただけるかどうか、わからない部分はあるのですが、地道に地元の野菜はいいよということで、先ほどSNSのお話もありましたけれども、こういった広告媒体も使いながら、やはり若い人に地元の野菜を消費していただくということを広めるのも大事かというふうに思います。以上です。

○清水さくら模擬副議長 続けての質問はありませんか。(18番 佐藤朱莉模擬議員「ありません。ありがとうございました」と言う)

以上で佐藤朱莉模擬議員の質問を終了いたします。

続いて、19番 戸張友加里模擬議員の発言を許します。

〔19番 戸張友加里模擬議員登壇〕

○19番 戸張友加里模擬議員 模擬議員の戸張友加里です。議長の許可をいただきましたので、保健

所の検査と休日営業の拡大について質問をいたします。

日本において、性感染症の感染者数は10年前と比較すると減少傾向にあります。しかし、年代別感染者数の内訳を見ると、高校生くらいから20代前半にかけて増加しているのが近年の特徴です。特に最近では、梅毒の流行が話題となっており、厚生労働省によると梅毒感染者はここ15年間で3倍以上に増加しています。現在越谷市保健所では、エイズやクラミジアなどの性感染症の予防と早期発見を目的として、毎月第1、第3水曜日の午後1時30分から午後2時30分の間に予約制で血液検査を実施しています。性感染症の中には症状があらわれないものもあり、放置していると男女ともに不妊症の原因となります。そのため少子化対策の一つとしてもとても意味のある検査であると認識しています。



しかし、越谷市保健所では、検査の受け付け時間が限られており、検査を受けたくても都合が合わず、受けられない社会人も多いのではないかと思います。埼玉県内でも春日部市や川越市、坂戸市、秩父市などでは夜間や休日に検査を実施しています。予約をせずに匿名で検査ができるところもあります。そこで、越谷市保健所でも市民の健康のために夜間や休日に予約をしていなくても受診できる手軽な検査として認知度を広めていけたらと考えているのですが、いかがでしょうか。近年の越谷市における性病検査受診率も兼ねて教えていただきたいです。

また、私は越谷市保健衛生審議会に参加しているため、平成27年度の地域医療における事業実績報告書を拝見させていただきました。そこには、休日当番医制事業で祝日、年末年始の21日間に1日2施設で診療できる施設を開き、計2,867人の患者さんが来院されたというデータがあります。これにより、休日に約137人の患者さんが来院されることがわかります。ここで、もう少し日曜日を含めた休日に診療できる病院、クリニックをふやすことはできないのか。休日に体調が悪くなった人のために電話相談などの取り組みがされているのか、お尋ねしたいと思います。質問は以上です。よろしくお願いいたします。

○清水さくら模擬副議長 ただいまの質問に対し、高橋幸一議員の答弁を求めます。

〔高橋幸一議員登壇〕

○高橋幸一議員 それでは、ただいまの戸張模擬議員さんのご質問にお答えいたします。

越谷市は、昨年4月に中核市として保健所を開設し、7月から越谷市H I V検査及び性感染症検査実施要領に基づき、H I V検査及び性感染症検査を開始いたしました。現在は、毎月第1、第3水曜日に検査を実施しております。検査は、あらかじめ電話で予約をいただき、当日は受け付け後に簡単な問診と採血が行われます。検査項目は、H I V、梅毒、クラミジア、B型肝炎とC型肝炎の5項目のうち希望するものを受けることができます。クラミジアは有料で1,840円かかりますが、

その他は無料で受けることができます。検査結果は、原則翌週の木曜日に検査申し込み控えと引きかえにお渡ししています。検査の結果は、より詳しい検査が必要な場合等は医療機関の受診をお勧めしています。

エイズ等性感染症検査は、国の特定感染症検査等事業実施要綱に基づき、全国の保健所等で実施され、H I V検査または性感染症検査を希望する方を対象に無料、匿名で実施しているものです。これは、検査を受けることさえ周囲の人に知られたくないため、近隣の保健所では受けたくないという方や、検査を受ける費用がないという不安や心配を解消し、必要な方に検査を受けていただくことで、エイズ等の早期発見や性感染拡大防止を図るためでございます。

越谷市保健所における夜間、休日の予約なしの検査実施におけるお尋ねでございますが、現在は予約の電話をいただいた時点で利用者の都合を伺い、夜間等を希望される場合には該当する保健所をご案内しております。

また、検査受診率についてのお尋ねでございますが、自治体が住民を対象に実施するがん検診などは住所地で受けていただくことになっており、自治体ごとの受診率が算出できますが、エイズ等性感染症検査は住所地等に関係なく受けていただくことができ、検査の時期や回数も判定可能な時期であれば必ずしも年1回に限定されるものではありません。このため検査受診率は算出されません。検査を開始して1年が経過いたしました。今後も利用しやすい相談、広報やホームページ等により、市民への啓発に努めてまいりますので、ご理解を賜りたいと存じます。以上でございます。

○清水さくら模擬副議長 続けての質問はありませんか。(19番 戸張友加里模擬議員「はい」と言う)

19番。

○19番 戸張友加里模擬議員 ご答弁ありがとうございます。

今お話をいただいた中で、電話での予約ということでしたが、ネット予約などをできるようにしたり、あと結果を直接聞きに行くのではなく、ネットや電話で結果を聞くことができるようにしたりなどの工夫によって、もっと受けやすい検査ができるのではないかと思ったので、提案させていただきたいと思います。

もう一つ、あと一つあるのですが、先ほども述べたとおり、性感染症感染者の割合は特に高校生くらいの年齢から20代前半にかけてふえており、知識がないことも感染拡大の原因であると感じております。感染症については、人に聞きたくても恥ずかしくて聞けない人も多くいると思います。そこで、予防策として、市内の各高校で感染症についての知識を学校の保健師の方や保健所の施設の方から講習会などを通じて広めていけたら予防にもなりますし、無駄な検査費用の削減にもつながると思うのですが、いかがでしょうか。今後こういった活動もご検討していただけたらと思います。先ほど述べた休日医療の拡大についてもご検討いただけたらと思います。よろしく願いいた

します。

○清水さくら模擬副議長 ただいまの質問に対し、高橋幸一議員の答弁を求めます。

○高橋幸一議員 再度のご質問でございます。

まず、1つ目です。電話の予約等における中での回答というような、手軽にというような部分かと思われませんが、現在先ほども答弁させていただきましたけれども、やはり匿名性とか、周りの方に対しての配慮というところから行っているところでございますが、今後そのネットの回答についての安全性、あとはそういう信頼性ですか、そういったところを今後検討しながら、私のほうも行政に対しても、またその辺、検討のほうは行ってもらえるようにしていきたいと思っております。

2つ目でございますけれども、高校生の啓発というような部分でございますが、ご質問にありましたように、やはり危険性という部分ですか、この怖さというものを知っていただくということは非常に大切なことかと思えます。今後いろいろな機会を通じまして、周知というところについては啓発をするような形で検討していただくよう進めてまいりたいと思っております。

それから、休日ということでございますが、越谷市も保健所になってまだ1年足らずということでございますので、今後近隣の施設等との状況を考えながら、その辺についても対応ということでは検討していただくようなことも考えていただくようなことを進めてまいりたいと思えます。以上でございます。

○清水さくら模擬副議長 続けての質問はありませんか。(19番 戸張友加里模擬議員「ありません」と言う)

以上で戸張友加里模擬議員の質問を終了いたします。

続けて、20番 岩淵伊織模擬議員の発言を許します。

〔20番 岩淵伊織模擬議員登壇〕

○20番 岩淵伊織模擬議員 模擬議員の岩淵です。議長の許可を得られましたので、越谷駅前の店並びについて質問をさせていただきます。

私は、越谷市内に住み、最寄り駅が越谷駅ということから、外出や食事などさまざまな機会に越谷駅を利用させていただいております。

2012年にはツインシティが開業し、冬になればイルミネーションで彩られ、以前に比べて確かに利用しやすく、またにぎわっているように思えます。しかし、店並びについては、私の友人を初めとした若年層や学生層には余り評判がよくないようです。実際に越谷駅を頻繁に利用



する同年代の友人に対し調査を行ったところ、半数以上の方が何らかの不満を抱えており、上がった意見としては、居酒屋やありきたりのチェーン店ばかりでおもしろみがない。サーティーワンやスターバックスのようなお店があれば、もっと利用したいと思うといったものがありました。一

学生である私自身も、越谷駅については少々物足りなさを感じることがあります。近辺に多くの中学校や高校があり、学校帰りに利用する学生も多いことから、こういった不満の声は無視できないものであると考えられます。

また、お隣の草加市に住む友人に対し、草加駅の満足度について調査をしたところ、ほぼ全員が草加駅には何らかの魅力があると答えております。この要因は何かと調査をしたところ、先ほど越谷駅に足りないと言われていた店舗が充実していることから、学生層や若年層のニーズに添えており、またラーメンの激戦区として有名なところで、駅前にもそういった店舗が多いことから、駅前にも特色があるといったことが要因ではないかと考えられます。

埼玉県の中核市に移行した越谷市は、今後サービスの充実や魅力のあるまちづくりを進めていくことになると思いますが、一部の年齢層だけではなく、さまざまな年齢層のニーズに添え、越谷市ならではの特色があり、魅力のある駅前づくりを進めていくことが、市内に住む人々だけではなく、ほかの市に住む人にとっても利用しやすいまちづくりにつながっていくのではないのでしょうか。第4次越谷市総合振興計画に挙げられている1日の越谷駅の乗降者数の増加という目標を達成する上でも、これは越谷駅が超えなければならない課題になるのではないのでしょうか。また、今後の駅前開発についての計画や方針などが定まっていましたら、あわせてご教示願いたいと思います。以上です。

○清水さくら模擬副議長 ただいまの質問に対し、畔上順平議員の答弁を求めます。

〔畔上順平議員登壇〕

○畔上順平議員 それでは、ただいまの岩淵模擬議員さんのご質問にお答えをいたします。

越谷駅前の店並びについてのお尋ねでございますが、本市では埼玉県東南部地域の中核都市にふさわしい都市機能の充実を図るため、越谷駅周辺及び南越谷駅周辺地区を本市の中心核としております。越谷駅周辺地区においては、越谷駅西口土地区画整理事業や越谷駅東口第1種市街地再開発事業により、駅前開発が完了しております。越谷駅東口第1種市街地再開発事業区域内の越谷ツインシティを初めとした駅周辺では、各種店舗並びに中央図書室や市民活動支援センターなどの行政機能が集積し、越谷駅の1日当たりの乗降客数も市街地再開発事業認可時の平成19年度の約4万6,000人から、事業完了後の平成25年度には約4万8,100人と、約2,100人増加し、駅前開発等の効果により乗降客数がふえてきているものと考えております。また、現在越谷駅東口周辺では、地元の商業者や商店会などが中心となり、宿場町であった歴史を生かした日光街道越ヶ谷宿宿場まつりや商店街の楽しさを伝えるまるななマーケットなどのイベントを初め、まちの魅力向上や新たなにぎわいの創出に向けたさまざまな取り組みが進められております。

お尋ねの越谷駅駅前再開発につきましては、市が主体となって市街地再開発事業を実施する計画は現時点ではございませんが、コンパクトシティの形成に資する拠点の中心核として、行政機能や

商業、業務機能を集積するとともに、鉄道やバスなどの交通結節機能を生かしたまちづくりを進めてまいりますので、ご理解賜りたいと存じます。

○清水さくら模擬副議長 続けての質問はありませんか。(20番 岩淵伊織模擬議員「はい、議長」と言う)

20番。

○20番 岩淵伊織模擬議員 ご答弁ありがとうございます。

私が思う越谷駅前の改善点について、特に思うことが、ツインシティ内の店舗についてです。先日私が休日ツインシティの中を散策させていただいた際に思ったことが、ツインシティの中は休日であるにもかかわらず閑散としており、店並びについても正直魅力があるものであるとは思えませんでした。また、特に問題であるのが、ツインシティ内に海鮮系の店舗が3店舗もあり、ほかの市に住む友人から、越谷市は築地でも目指しているのかと皮肉を言われてしまったことがあります。こういった同系統の店舗が並んでいることは、ニーズの競合を起こしていると考えられ、市民の意見を取り入れられているとは考えられません。こういった駅前開発の中で市民の声を取り入れることはあるのでしょうか、お尋ねいたします。

○清水さくら模擬副議長 ただいまの質問に対し、畔上順平議員の答弁を求めます。

○畔上順平議員 ただいまの再質問にお答えいたします。

確かにツインシティの中を見てみますと、現在、平成28年の7月現在でございますが、まず空き区画が10区画、出店区画47区画ということで、空き区画もまだ随分ある状態であると思います。また、ご指摘のとおり、ある一定の業種の出店が目立つというご指摘でございますが、それに関しましても行政といたしましてなかなかそこに介入できないということも事実でありまして、ツインシティというのは独立した組織でございますので、行政としてなかなかそこに踏み込めないことではあるのですけれども、ただやはり市民の皆様からそういったご意見があるよということをこのツインシティに関しまして、行政ももともとこの再開発には当然かかわってきたものでございますので、その点意見を入れていくということは十分に考えられることだと思っております。以上でございます。

○清水さくら模擬副議長 続けての質問はありませんか。(20番 岩淵伊織模擬議員「ありません」と言う)

以上で岩淵伊織模擬議員の質問を終了いたします。

続いて、22番 有澤颯太模擬議員の発言を許します。

〔22番 有澤颯太模擬議員登壇〕

○22番 有澤颯太模擬議員 模擬議員の有澤です。議長の許可をいただきましたので、中核市越谷について質問をいたします。

地方自治において、政令指定都市というような都市制度は、公民の分野ではよく耳にすることです。先ほどの質問や答弁の中にもございましたが、私は先日この都市制度の中に政令指定都市と並び、中核市というものがあることを知りました。越谷市も昨年この中核市に指定されたそうです。しかし、この中核市というものはなかなか聞きなれないというよりは、私自身正直なところ、聞いたことがありませんでした。それが、一体どういったものなのかを知らずにいました。ですが、今回の模擬議会の参加をきっかけに、中核市について調べてみることにしました。調べてみると、その概要、来歴などは出てきましたが、わかりにくいことが多くありました。その中でも民生や保健衛生、地方教育などのさまざまな行政分野での事務が県から移譲されるとのことですが、それが私たちの生活にどのようにしてかかわってきているのかについてはわかりませんでした。ですので、中核市に指定されたことが、私たちの生活にどうかかわっているのか、また指定されたことによって何か変化したことがあるのかについてお尋ねします。



また、県有数の中核市に指定された市として、そして県からの行政事務の移譲をされたことによって、新たな市としての課題が出てきたと考えられます。ですので、越谷市が中核市としての今後の課題や目標についてお尋ねします。以上です。

○清水さくら模擬副議長 ただいまの質問に対し、大野保司議員の答弁を求めます。

〔大野保司議員登壇〕

○大野保司議員 それでは、ただいまの有澤模擬議員さんのご質問にお答えいたします。

越谷市では、平成27年4月に県内で2番目となる中核市に移行いたしました。現在全国には1,700を超える市町村がありますが、中核市は規模や行政機能などが比較的大きな自治体の事務権限を強化し、住民の身近なところできめ細やかな行政サービスを提供し、独自のまちづくりを展開しやすくするよう創設された制度です。現在越谷市を含め、全国47市が指定されています。中核市になり1年半が経過いたしました。従前さいたま市が行っていた2,000を超える事務権限を越谷市が直接実施することによって、市民サービスの効率化が図られ、また地域に密着した行政サービスができたことが成果と捉えています。

具体的には、権限移譲された業務の中でも、保健所設置に伴う行政サービスが挙げられます。食品衛生、環境衛生、精神保健、感染症予防など、専門的なサービスを市民がより身近なところで受けることが可能となりました。特にインフルエンザやノロウイルスなどの感染症の対策、対応については、市民への速やかな情報提供や注意喚起などができるようになりました。また、保健所の管轄で設置した動物管理センターでは、犬、猫の保護、収容、譲渡等の業務を中心に行っておりますが、市民団体等との連携が一層進んだことにより、殺処分がゼロになるとともに、飼い主への返還

や市民への譲渡がより円滑に進むようになりました。さらに、福祉、環境業務等においても、市民が身近なところで各種の行政サービスを受けることが可能となりました。

今後の目標や課題としては、越谷市で実施することになった新たな業務について、専門的なノウハウの蓄積など、組織としての全体的なレベルアップや、越谷市らしい地域に密着した行政サービスのさらなる質の向上も必要と考えています。また、中長期的には、中核市に見合った財政力の向上も必要と考えています。今年度で中核市2年目を迎えますが、今後もできるだけ多くの市民の皆さんの声を聞きながら、越谷に住んでよかったと思っただけのようなまちづくりを市民の皆さんとともに私も一議員として築いていきたいと考えています。

○清水さくら模擬副議長 続けての質問はありませんか。(22番 有澤颯太模擬議員「ありません」と言う)

以上で有澤颯太模擬議員の質問を終了いたします。

続いて、23番 奈良美帆子模擬議員の発言を許します。

[23番 奈良美帆子模擬議員登壇]

○23番 奈良美帆子模擬議員 本日最後の質問者である模擬議員の奈良美帆子です。議長の許可をいただきましたので、子育て支援の特別策として老人ホームと保育園の併設、合併施設の開設について質問させていただきます。

先日アメリカでは、世界中が注目し、落胆と歓喜の声があちらこちらで上がった大統領選が行われました。共和党のドナルド・トランプ氏が新たな歴史をつくる第一人者として期待を受け、大統領に選出されました。これからのアメリカを担うトランプ氏は多少の不安もありますが、さまざまな政策を生み出し、実行していくと思います。



さて、アメリカでは、近日話題の一風変わった子育て支援施設があることをご存じでしょうか。それは、ワシントン州・シアトルにある幼老統合施設です。これは、その名のとおりに、保育園と老人ホームが合併された施設で、幼児と高齢者が一緒に過ごす施設であります。シアトルにあるその施設では、平均年齢90歳の高齢者とゼロから5歳の幼児が日々一緒に過ごしているそうです。この施設のメリットは、高齢者、子供たち双方にいい影響が及ぶところです。高齢者は、子供たちから希望や生命力が与えられ、子供たちは高齢者から生きていく上で大切なことを学びます。こういった子供たち、高齢者の双方にとっても有意義な施設であるだけでなく、幼老統合施設は待機児童の問題、高齢者の認知症による事故といった社会問題も解決してくれると思います。というのも、近年核家族化が進み、多くの高齢者が孤独に生活することを余儀なくされています。孤独死の危険性もありますし、高齢者にとって孤独は認知症のリスクが高くなるという研究結果もあります。

近年認知症の高齢者による事故が多発しているのは、周知のことであると思います。認知症は、一度発症すると完治は難しいことから、発症リスクを抑えることが予防策です。この予防策として、高齢者の孤独状態からの脱出を図るこの施設の増設を強く望みます。

そして、この老人ホームと保育園の合併施設は、待機児童問題の解消にもつながります。先ほど武藤議員がおっしゃっておいりました待機児童解決のためにレイクタウンで保育事業を促進させる動きがあるということでしたが、この施設は増設といっても新たに施設を建設しなければならないわけではなく、もとある施設を再利用できるという点でもコスト削減につながりますし、今ある施設を使用するわけですから、すぐにでも事業を開始できると思います。私が調査したところ、日本では現在100を超える老人ホームと保育園の併設施設が存在しているそうですが、埼玉県内では上尾市が2施設展開しているだけでした。

そこで、提案なのですが、越谷市において幼老統合施設を新たに開設してはいかがでしょうか。また、それについて越谷市はどのようにお考えでしょうか、お答えをお願いします。

○清水さくら模擬副議長 ただいまの質問に対し、島田玲子議員の答弁を求めます。

〔島田玲子議員登壇〕

○島田玲子議員 それでは、ただいまの奈良模擬議員さんのご質問にお答えをいたします。

子育て支援の具体的な案についてのお尋ねでございますが、まず越谷市の待機児童につきましては、平成27年4月1日には28人おりました。このため平成27年度は民間保育園2カ所のほか、小規模保育事業所等の整備を支援し、合計で324人の定員拡大を図りました。しかしながら、平成28年4月1日の待機児童は前年比10人増の38人となり、解消には至っていない現状でございます。このような状況を踏まえ、本年度においても引き続き民間保育園や小規模保育事業所等の整備の支援を進め、保育定員の拡大に取り組んでおります。今後も入所申し込みの状況や待機児童の多い地域の状況を鑑みて、効果的な施設整備を図り、待機児童の解消に努めてまいりたいと考えております。

次に、保育所と介護施設の合体または併設についてのお尋ねでございますが、近年越谷市内においても核家族化が進み、祖父母と孫と一緒に生活されていない世帯がふえている状況などから、高齢者と子供が触れ合う機会は減少してきているものと考えられます。ご提案をいただいている保育所等の乳幼児施設と高齢者福祉施設を併設する幼老共生施設は、子供と高齢者が交流することにより、さまざまな効果が得られることが広く知られております。一例といたしまして、子供においては礼儀作法が身についた、思いやりのある心が育まれたなど、一方高齢者においては表情が豊かになった、気力が回復し、身体能力が向上したなどの効果が報告されております。こうしたことから、越谷市といたしましてもこの効果等を踏まえ、現在多世代交流を目的として先進的に行われている幼老共生施設の整備や運営について、調査研究を行っているところでございます。今後につきましても、引き続き幼老共生施設の整備等について調査研究してまいりたいと考えております。以上で

ございます。

○清水さくら模擬副議長 続けての質問はありませんか。(23番 奈良美帆子模擬議員「はい、議長」と言う)

23番。

○23番 奈良美帆子模擬議員 ご答弁ありがとうございます。

ご答弁の中にありましたけれども、整備、調査研究を進めてまいりますということでしたが、具体的に実行するというお話は越谷市の中では出ていないのでしょうか。

○清水さくら模擬副議長 島田玲子議員、お願いいたします。

○島田玲子議員 ただいまの奈良議員の再質問にお答えさせていただきます。

今申されましたことですが、先進的な施設の運営、それから調査研究をただいま行っているところでございます、越谷市は。ですから、その方向に行きますようにと、私一議員といたしましても市にしっかり働きかけ、そして私もしっかりと取り組んでまいりたいと思っておりますので、ご理解賜りたいと思います。以上でございます。

○清水さくら模擬副議長 続けての質問はありませんか。(23番 奈良美帆子模擬議員「はい、議長」と言う)

23番。

○23番 奈良美帆子模擬議員 続けて質問をさせていただきます。

先ほど大野保司議員がおっしゃられた、27年度で県内2番目である中核都市と、越谷市は中核都市となっていたので、こういった斬新な案を早いうちに取り入れるのも私はいいと思うのですが、整備、調査研究というのは何年、いつごろからやられていて、何年ぐらいやっっているのでしょうか。具体的に教えていただければうれしいです。お願いいたします。

○清水さくら模擬副議長 ただいまの質問に対し、島田玲子議員の答弁を求めます。

○島田玲子議員 それでは、ただいまの再々質問にお答えさせていただきます。

何年ぐらいからという質問でございますが、ただいま行っているところでございますので、ちょっと何年ぐらいというところが私の手元にはございませんので、ただいまもうそういう取り組みをしておりますので、私自身先ほど申し上げましたように、早い機会にこのことが実現できますように、しっかりと一議員として市に働きかけてまいりますので、ご理解を賜りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○清水さくら模擬副議長 続けての質問はありませんか。(23番 奈良美帆子模擬議員「ありません。ありがとうございました」と言う)

以上で奈良美帆子模擬議員の質問を終了いたします。

◎ 閉 議 の 宣 告

○清水さくら模擬副議長 以上で模擬議会の議事は全て終了いたしました。

◎ 市議会副議長の挨拶

○清水さくら模擬副議長 ここで、越谷市議会の服部正一副議長よりご挨拶をお願いいたします。

〔服部正一副議長登壇〕

○服部正一副議長 皆さん、お疲れさまでございました。越谷市議会で副議長を務めております服部と申します。閉会に当たりまして、一言ご挨拶を申し述べます。

模擬議員の皆様におかれましては、朝早くから長時間にわたりましたご出席をいただきまして、まことにありがとうございました。実際にこの議場に入って、議席に座って、そしてこの登壇に上がって発言してみた感想はいかがでしたでしょうか。とにかく自分の順番が終わって、ほっとしている方もいるでしょうし、自分の聞きたい答えを聞いて、よかったなと思う人もいるかもしれません。また、もうちょっといろんなことを聞きたかったのだけれども、もう少し時間が欲しかったなという方も多分いらっしゃると思います。今回は、お互いに8分間という限られた時間の中でのやりとりでございましたけれども、皆さん方の思いをしっかりと受けとめて、私たち答弁した議員も一生懸命勉強しながら、精いっぱい答弁をさせていただいたつもりです。私たちの思いが皆さんの胸にしっかりと届いていることを願うばかりでございます。



きょうは、皆さんの発言自体は大変短い時間でありましたけれども、発言するに当たってはいろんな資料を読み込んで、いろんな方々の意見を聞いて、そして必要に応じて現地を調べて、そして質問をまとめていただいたということを皆さんの質問を聞いていまして、私たち大変よく感じ取ることができました。実は、私たち議員もここで一般質問を行いますが、皆さんと同じように時間が無制限にあるわけではありません。そこで、私たちの思いを効果的に市政に伝えることができるように、日ごろから時間をかけていろんな資料を調査して、そして多くの市民の皆さんの意見を聞いて、そして現場に足を運んで、何が問題であるかということをしつかりと問題点を整理しながら議員活動を行っているわけでありますが、そういった議員活動の一端を少しでもきょう感じていただいたならば、私も大変うれしく思っています。

最近、シルバー民主主義という言葉を目にする機会がふえました。しかし、私は思うのです。

皆さん方のように若い世代が中心となって社会を動かして、社会を盛り上げていただくものだというふうに思っています。これから皆さんは、それぞれの高校と大学で勉学を積み重ねて知識を蓄えていきます。そして、社会に出たら、さまざまな経験をして、社会のありようや政治のありようを自分なりの意見として持つことになるはずです。そんなときにきょうのこの経験を生かして、問題点は自分で一生懸命調べて、周りの皆さんが納得をしていただけるような形でぜひ行動していただけるような、そういったリーダーになっていただきたいというふうに願っています。私たち越谷市議会議員も皆さんを初め、多くの市民の皆様のお思いをしっかりと受けとめながら、きょうご出席をいただいております市長を初め執行部の皆様方とともに、皆さんの思いがしっかりと伝わる市政発展に取り組んでいけるように、これからも活動していくことをお約束したいと思っております。

最後になりますが、本日もご出席をいただきました模擬議員の皆さん、そしてそれを応援していただきました家族の皆様、学校の教職員の皆様方を初め本日の開催にご尽力をいただきました関係者の皆様方に感謝を申し上げ、副議長としての挨拶とさせていただきます。本日はまことにお疲れさまでございました。ありがとうございました。

◎ 閉 会 の 宣 告

○清水さくら模擬副議長 これをもちまして、第4回越谷市模擬議会を閉会いたします。

大変ご苦労さまでした。

(閉会 14時29分)

地方自治法第123条第2項の規定に準じ署名する。

議 長 奈 良 美 帆 子

副 議 長 清 水 さ くら

署 名 議 員 松 山 佳 奈

署 名 議 員 加 藤 玲

署 名 議 員 和 田 沙 帆

参 考 資 料

1 模擬議員名簿

1 一般質問通告一覧表

◎模擬議員名簿

発言順	議席番号	氏名	学校名
1	1	清水 さくら 模擬議員	文教大学
2	2	松山 佳奈 模擬議員	越谷南高校
3	3	加藤 玲 模擬議員	越谷西高校
4	4	和田 沙帆 模擬議員	埼玉県立大学
5	5	内海 仁 模擬議員	越谷総合技術高校
6	6	中川 アデル雄太 模擬議員	明治大学
7	7	横川 舞 模擬議員	越谷東高校
8	8	小里 凌 模擬議員	越谷南高校
9	9	山崎 洸太 模擬議員	文教大学
10	10	井坂 桃菜 模擬議員	越ヶ谷高校
11	11	永田 浩輝 模擬議員	越谷東高校
12	12	仁科 佑真 模擬議員	越谷北高校
13	13	相澤 達也 模擬議員	埼玉県立大学
14	14	安藤 裕也 模擬議員	越谷西高校
15	15	渡部 拓海 模擬議員	中央大学
16	16	鶴見 喬 模擬議員	越谷北高校
17	17	原 智宏 模擬議員	獨協埼玉高校
18	18	佐藤 朱莉 模擬議員	越谷総合技術高校
19	19	戸張 友加里 模擬議員	埼玉医科大学
20	20	岩淵 伊織 模擬議員	文教大学
21	21	瀬間 友紀乃 模擬議員	文教大学
22	22	有澤 颯太 模擬議員	越ヶ谷高校
23	23	奈良 美帆子 模擬議員	文教大学

◎一般質問通告一覧表

議席	質問者	質問事項	答弁者
1	清水 さくら (文教大学)	○介護者不足の解消方法について	宮川雅之 議員
2	松山 佳奈 (越谷南高校)	○子育て支援について	武藤 智 議員
3	加藤 玲 (越谷西高校)	○学校選択制について	山田裕子 議員
4	和田 沙帆 (埼玉県立大学)	○市民参加と協働による市政、市のホームページについて	瀬賀恭子 議員
5	内海 仁 (越谷総合技術高校)	○市立図書館の蔵書について	清田巳喜男 議員
6	中川 アデル雄太 (明治大学)	○越谷市の観光事業について	後藤孝江 議員
7	横川 舞 (越谷東高校)	○高齢者のバス利用について(無料シルバーパス)	宮川雅之 議員
8	小里 凌 (越谷南高校)	○住宅街の街灯について	菊地貴光 議員
9	山崎 洸太 (文教大学)	○越谷市の教育について	工藤秀次 議員
10	井坂 桃菜 (越ヶ谷高校)	○参議院選挙における未成年の投票率について	松田典子 議員
11	永田 浩輝 (越谷東高校)	○南越谷駅前のバスについて	畑谷 茂 議員
12	仁科 佑真 (越谷北高校)	○入学準備金貸付制度について	工藤秀次 議員
13	相澤 達也 (埼玉県立大学)	○訪日外国人観光客への対応について	大野保司 議員
14	安藤 裕也 (越谷西高校)	○SNSの利用について	福田 晃 議員
15	渡部 拓海 (中央大学)	○越谷レイクタウン事業について	細川 威 議員
16	鶴見 喬 (越谷北高校)	○橋りょうの耐震化率について	畔上順平 議員

議席	質問者	質問事項	答弁者
17	原 智 宏 (獨協埼玉高校)	○行政改革について	福田 晃 議 員
18	佐 藤 朱 莉 (越谷総合技術高校)	○越谷市の地元野菜の販売について	細川 威 議 員
19	戸 張 友加里 (埼玉医科大学)	○保健所の検査について	高橋幸一 議 員
20	岩 淵 伊 織 (文教大学)	○越谷駅前の店並びについて	畔上順平 議 員
21	瀬 間 友紀乃 (文教大学)	○水害対策について	菊地貴光 議 員
22	有 澤 颯 太 (越ヶ谷高校)	○中核市越谷について	大野保司 議 員
23	奈 良 美帆子 (文教大学)	○子育て支援の具体的な案について	島田玲子 議 員

感 想 文



第4回 越谷市模擬議会に参加して

1番 清水 さくら（文教大学）

今回は、模擬議会の副議長を担当させていただきました。副議長は、一般質問の順番が一番初めなのでとても緊張していましたが、質問をしているうちに徐々に自分のペースを掴むことができ、自分の考えをしっかりと伝えることができました。

午後は、議会の進行をさせていただきました。模擬議員の皆さんが少しでも緊張がほぐれるように、登壇席に上がる前に一礼をする際にしっかりと相手の目を見て礼をすること、ゆっくりはっきり話すことを心がけました。

模擬議会の後は、私たち模擬議員の質問に答えてくれた市議会議員の方と意見交換会を行いました。市議会議員の方には普段どのような活動を行っているのか、政務活動費や会派についても質問させていただき、普段知りえなかった議会の仕組みも知ることができました。

今回は大変貴重な経験をさせていただきました。私たち学生の意見が少しでも議会に反映されると嬉しいです。

2番 松山 佳奈（越谷南高校）

今回、この越谷市の模擬議会に参加して今までにはしたことのない経験ができ、とても有意義な時間を過ごせました。めったにない機会に緊張しつつも、実際に市政に携わる方々に意見することができ感激いたしました。また、他の学生の考えを聞く機会は今までにはなかったもので、大変興味深かったです。

私たち一般人にとって政治とは本来身近な存在でなければいけないはずですが、関わる機会があまり多くないというのも事実だと思います。また、選挙権の対象年齢が18歳以上になり、若い世代も政治に携わりやすくなってきました。そういった中で今回のような取り組みをきっかけに多くの人々が市政について興味を持ち、もっと注目されていければいいと思います。

今回の経験を通して、政治に関心を持ち続け、より良い社会を築いていけるような社会人を目指して努力したいと思います。

3番 加藤 玲（越谷西高校）

私は、今回の模擬議会に参加して、わかったことが二つあります。

まず一つ目は、越谷市についてまだ知らないことがたくさんあるということです。私は生まれてから17年間、ずっと越谷に住んでいます。しかし、模擬議会で模擬議員が様々な質問をするのを聞いてみると、知らないことばかりでした。例えば、介護者不足の問題や、越谷市の観光事業について、また入学準備金貸付制度など、普段あまり気にしていなかった部分の問題が多かったように思います。自分の住む市なのに、まだまだ知らないことが多いのは、少し残念ですが、今回の模擬議会でその事実に気付けたことは、とても良いことだと思います。

二つ目は、私のような学生でも越谷市をよりよくするために協力し、力になれるということです。他の模擬議員の質問を聞いていて、ツイッターでの越谷市のアカウントの利用数や、町の街灯問題などは、学生だからこそ気付いて指摘できる問題のように思いました。学生と大人が手を取り合い、越谷市について話し合える模擬議会は、とても大切なものだし、参加した私も、何か大きなものを得られたような達成感があり、参加して良かったと思っています。

4番 和田 沙帆（埼玉県立大学）

私は今回の模擬議会で、政治や自分の住む国・自治体について考えるきっかけになればと思い参加しました。一般質問を行う上で、普段見ていなかった市の振興計画等を見て勉強をしました。そこで知った事と、普段漠然と思っている事を重ね合わせて考えると様々な疑問が生まれました。それを実際に議場で発問し、議員の方から直接ご答弁をいただくのは、とても緊張することではありましたが、貴重な体験となりました。また、自分の提案を議会で検討すると回答を頂いたのは、自分の意見を取り入れられ、政治に参加するという事を体験することができました。

討論会では議員の方と直接会話をすることができ、その中で議員の方の、“常に市民の見方であり、市民のために変えていきたい”という思いを聞くことができました。この経験を通し、これから自分も社会人として政治に関心を持ち、自分の意見や希望を選挙などの表明できる場をもって発信していきたいと思いました。貴重な経験をありがとうございました。

5 番 内 海 仁（越谷総合技術高校）

第4回越谷市模擬議会というなかなか経験することのできない、貴重な体験を終え今まで過ごしてきた越谷についてまだまだ知らないことばかりだと思いました。

私が質問した市立図書館の蔵書について、という点でも越谷にある公営の図書機関全体でバランスよく配架されていると答弁を受け、図書機関1つとってもなおまだ知らないことがあるのだ、と感じさせられました。そのため、今まで生まれ育ってきた越谷についてこれからもっと深く知ることができたらいいなと思いました。特に、図書機関は私が好きな系統の小説等も配架されている南部図書室や他の出張所にも行ってみたいと思いました。

また、他の模擬議員の質問を聞いて、私とは違う方向から質問をしていて形は違えど越谷のことをしっかり考えているんだなと感じました。

今後の学校生活や私生活において、今回の模擬議会の経験を活かし疑問や要望を、そのままにしないで試してみることを大切にしたいです。

6 番 中 川 アデル雄太（明治大学）

この度は、越谷市の模擬議会に、模擬議員として参加させていただきまして、誠にありがとうございました。普段生活しているだけでは絶対に体験できない貴重な経験をさせていただいたと思います。

特に今回の模擬議会を通じて一番強く感じたことは、普段の生活の中で、越谷市にもっと関心を向けて、まちを歩いたり、イベントに参加したりしていくことが、市政を良くしていく上で大事なのだということでした。また、他の模擬議員の方や議員の方々のやり取りを聞くなかで、自分がまだまだ越谷市について知らないということを痛感し、自分の住む越谷市にもっと目を向けていこうと改めて思うきっかけとなりました。

私は、以前越谷市のインターンシップに参加したこともあったので行政と議会、両方の経験をすることができました。今後は、これらの経験を生かしながら、一住民として様々な意見を届けつつ、越谷市の発展に協力していきたいと考えております。

7番 横 川 舞（越谷東高校）

今回模擬議会に参加したことで、実際の市議会に近い雰囲気や、議会形式を肌で感じることができました。質問するときにはとても緊張しましたが、自分の動きや発言等、自信を持って行うことができました。私が質問させていただいた『高齢者の交通機関の利用（シルバーパス利用）』については、「数億円の支出が必要になる」「実際にシルバーパス事業を行っていたものの、廃止した自治体もある」という実例を交えたわかりやすい答弁をいただき、現在の越谷市には、シルバーパス事業の導入は難しいということがわかりました。しかし、人口の増加や、企業の発展等、越谷市が今よりもっと栄えた都市になれば、シルバーパス以外にも、新しい事業、他の事業の発展にも繋がることと思います。この課題を通して、越谷市のより住みやすいまちづくりの促進を期待したいです。また、他の模擬議員の方の発言や、議員さんの答弁は、同じ越谷市の学生として、興味深い内容のものばかりでした。今回の貴重な体験を、進路で生かしていきたいと思っております。ありがとうございました。

8番 小 里 凌（越谷南高校）

私は、隣の草加市に住んでいるのですが、現在通っている高校が越谷市にあるため、学校の先生から参加を勧められて参加を決めました。現職の市議会議員の方が私たちの質問に答えてくださることによって、私は以前から気になっていた「越谷市の街灯の少なさ」について質問させていただきました。実際の議会にも使われている議場を使用し、緊張しながらも楽しみながら、質問させていただくことができました。そして、自分を含めた高校生、大学生の意見をご多忙の中、事前の準備をしていただき、議員の皆様が越谷市に対する熱意が伝わってきました。自分は学校で生徒会の運営に携わっているのですが、今回の模擬議会を通して得た経験をこれからの活動に活かしていけたらと思います。難しいことも多々ありましたがよい経験をさせていただいたと思っております。

9番 山崎 洸太 (文教大学)

先日行われた越谷市模擬議会に参加してみて地方自治体における政治がどのようにして行われているのか知るいい機会になったと思う。

今年の6月に選挙法が改正されて選挙権が18歳以上に引き下げられ、翌7月に改正後初めての参議院選挙が実施された。これがきっかけで政治について関心を持つようになった。

参加してみて1日間で一人当たり8分の持ち時間は短いと思っていたが、今まで8分という時間をかけて発表する機会がなかったのでとても長いように感じた。また事前にはしっかりと話せるように練習していたけれども質問台に立つと思っていたように話せなくなったように思えた。しかし私の聞きたいことをしっかりと伝えることができよかった。

近年若年層の政治への関心が低下しているとよく聞かすが、このような学生を対象にした政治参加は関心を持ってもらえるいい機会だと思う。これからは住んでいる市で普通に過ごせていることが裏では多くの議員さんによって実現しているということを忘れずに生活していきたい。

10番 井坂 桃菜 (越ヶ谷高校)

越谷市模擬議会に参加したことにより多くの事を学ぶことが出来ました。まずはこの機会を与えてくださった先生には本当に感謝しています。高校生で生徒会という立場で模擬ではありますが議会に参加し、普段関わることのない人達との交流があり、貴重な経験となりました。

議員の人達というのは今までポスターや選挙の際に駅前に居たりする私とは違う世界の人のように感じていました。今回の模擬議会で実際に会って話してみて、実はもっと身近に居てくれている人たちで市のことを考え、一生懸命に働いている人たちだと知ることが出来ました。

それからわたし以外の模擬議員さん達の一般質問はどれも興味深いもので私では考えつかなかった質問があったりして、聞きながら改めて考えさせられるような事もありました。

わたしは越谷市民ではないのですが、こうして模擬議会に参加したことはこの先きっと良い経験として残るとおもいます。またこのような機会があれば参加したいです。

12番 仁 科 佑 真 (越谷北高校)

私は今回模擬議員という貴重な体験をして、市政への興味・関心が高まったと思います。

学校の先生の推薦がきっかけで参加することになりました。実際にする質問の作成当初は、右も左もわからず大変でした。しかし、先生のアドバイスを基に調べ進めていくうちに越谷市を知ることが楽しく感じました。議会当日は、他の模擬議員さんの質問が興味深く、また議員さんが私の質問に丁寧に回答して下さい、緊張したけれども勉強になりました。

私は市外の人間ですが、この経験を機に自分の町の市政について調べたり、意見を出したりしていこうと思いました。

13番 相 澤 達 也 (埼玉県立大学)

初めにこの越谷市模擬議会に参加し、大変貴重な体験をさせていただきました。このような機会を設けていただき誠にありがとうございます。私はこの模擬議会へ目標を掲げ、参加しました。行政職として議会とのかかわり方を学ぶ、ことです。私は来年から市役所の職員として行政に携わっていきます。市をよりよくしていく過程で、おそらく議会とかかわることもあると思います。そのため議会がどのようなものであるのか、そういった議会の仕組みをある程度知ること、将来のかかわり方に有利になると思い参加しました。実際、参加し最後の意見交換会では議員の方に議会内部の話などを聞くことができ大いに参考になりました。ただ私は議会に対して形式化してしまっている、と感じました。あらかじめ考えてきた文章を各々が読み上げるだけになってしまい、率直な議論ができていないのではないかと感じました。議会の後の意見交換会のほうが議員の方の本音や考えがより伝わってきたように感じました。議会でそのような率直な議論をしたほうがより一歩踏み込んだ内容になるのではないかと感じました。

14番 安藤 裕也（越谷西高校）

今回模擬議会に参加させていただき、とても貴重な経験になりました。

参加するまでは、市議会のことについてあまりわかりませんでした。

でもこの模擬議会を通して実際に議場に入り質問させていただいて市議会のことの少しも理解できたかなと思います。

今回、「SNSの利用について」質問させていただきました。この質問は自分が前から思っていたことでそれを議員さんに直接質問でき、答弁していただいて今年から対策を始めたことやホームページのアクセス数を増やす取り組みをしていたりすることがわかり意見交換会でも自分の意見を伝えられてとてもいいものになりました。

これからも市政に関心を持って若い自分たちになにができるのかをしっかりと考えていくことが大切だと思いました。本当に貴重な経験をありがとうございました。

15番 渡部 拓海（中央大学）

第4回越谷市模擬議会に参加させていただきありがとうございました。政治学科に所属しているので、実際の政治の世界を少しでも見てみたいと思い応募しました。

質問事項の事前通告書や質問原稿を作成するにあたって越谷市に関する様々な資料を読み、今まで知らなかった越谷市の新しい一面に多く触れることができました。書類準備の段階で市民活動の場として利用されている様々な施設の存在を知ることができたのは有意義だったと思います。

模擬議会当日は多少の緊張はあったものの、だいたいイメージ通りに登壇することができました。他の参加者の方々の発言は一人の若者として、一市民としての目線で観察した越谷市の実情を述べていて、市政に対しての新たな見方を示していたように思います。

模擬議会を通して政治の世界を垣間見ることができたのはもちろんのこと、市政の身近さ、そしてまだ知らなかった越谷市の魅力に気づくことができました。この貴重な経験を、大学生活そして社会に出てからも活かしていきたいです。

16番 鶴 見 喬（越谷北高校）

私が模擬議会やその前後の活動を通して感じたことは、越谷市をより良いものにしようと活動している人が多いことです。越谷市役所等の職員の方々を始め、越谷市議会の方々、さらには民間の団体においても多くの方々が市のために活動していることを知りました。私はそうした方々の活動を全く知らずに越谷市で生活していたことを恥ずかしく思いました。しかしながら、今回の議会で私は、自分も市のために活動できるということも学びました。その方法は市に対する意見や疑問を持ち、それらを学校なり、団体なりでまとめ、市に提案するという方法です。私は以前まで、市の政策には一般の人は関われないのだろうと思っていました。しかし、越谷市は市民の声に耳を傾ける体制が整っている市だと模擬議会を通して感じました。市をより良いものにするのはその市で生活する人だと思えます。私は、今回の体験から、これからは人任せにするのではなく、主体的に市のために活動して行こうと思いました。

17番 原 智 宏（獨協埼玉高校）

今回、模擬議会に参加してみても感想は第一に議会の登壇席というのは、こんなに緊張するものであり市民を代表しているものの重みであるのだなと思いました。登壇席からの景色やマイクから響く音などを聞いていると余計に緊張してしまうことがわかりました。

また今回実際の市議会の議員さんたちと意見交換会という形で最初接してみても感想は、とにかく話しやすいことです。普段話をしている人とは違い、本当に今回の議員さんたちは自分たちの生い立ちやなぜ自分は市議会議員に立候補したのかなど丁寧にわかりやすく、教えてもらえてとてもうれしかったです。また若者のみなさんにどのようにしたら政治や市議会について興味を持ってもらえるのかなど、私たち模擬議員に質問などをして本気でこのような日本のこれからの課題について向き合っているのかがよくわかりました。

今回のこれらの経験をこれからの人生に生かせれば良いなと感じました。

18番 佐藤 朱莉 (越谷総合技術高校)

この度は第4回越谷市模擬議会に参加させていただきありがとうございました。地元野菜の販売について調べたことにより、生まれてから越谷市に暮らしていて知らなかった場所を見つけることができました。

普段は買う物が決まっています。スーパーマーケットへ行きますが、地元野菜の配置などを意識してみると、いろいろと気づくことができました。また、実際に議場に行き、登壇して質問をすることは、とても貴重な体験でした。

今回から高校生が参加できることになり、わからないことも多く緊張してしまいましたが、他の模擬議員の方の意見や市議会議員の方の答弁を聞くことで、市政には多くの方の協力が必要であり多くの方の思いで成り立っているのだと思いました。意見交換会では、模擬議会では質問できなかったことについて質問をし、意見もいただくことができました。

市民の人々が市政に興味を持ち、たくさんの意見を聞くことができれば、越谷市をより良くすることができるのではないかと、今回のことを通して思いました。私自身も視野を広げて考えていきたいと思えます。

19番 戸張 友加里 (埼玉医科大学)

この度は、模擬議会という貴重な機会を与えて頂きありがとうございました。

自分の考えを、市長を始め多くの議員の方々の前で発言できたこと、他の模擬議員の意見に耳を傾けることができたこと、大変嬉しく思います。

今回私は保健所の検査、休日の医療体制について質問させていただきました。二年前の第3回越谷市学生議会の経験も踏まえ、より意味のあるものにしたいと思い今回の議会に挑みましたが、緊張している状況で分かりやすく自分の意見を伝えることはやはり難しいことを痛感しました。どうしたらより自分の意見を理解してもらえるのか、もっと工夫ができたのではないかと反省しています。

議会後の意見交換会では、皆が積極的に、より深く話し合いとても充実した時間を過ごすことができました。たった1日ではありましたが、市政がどのように作られていくのかを感じることができた気がします。

この経験を通して、より一層越谷市が好きになりました。これからも、越谷市に関心を持ち続け、住みやすい中核市越谷を目指し市民の一人として貢献していけたらと思います。

20番 岩 淵 伊 織 (文教大学)

今回の模擬議会に参加し私は多くの事を学ぶことが出来ました。まず第一に自分が日頃疑問に思っていることに対してしっかりと証拠を立てて話すことの難しさです。“模擬”議会であるとはいえ議員の方にお答えして頂く以上中途半端な憶測だけで質問をすることは避けたかったので、ある程度は自分で下調べをして臨んだのですが、それでも主観的な考えが強く出てしまっていたように思いました。

そして第二に市政の運営の難しさです。改善するべき点が見えていたとしても主に予算の都合上、全ての課題に同時に取り組むことはできず、議員の方々も歯痒い思いをしていることが答弁や意見交換会を通して感じる事ができました。市が何から取り組むべきかを考える際に私たち一人一人の市民の意見がとても重要であり、ただ受け身で改善してもらうのを待つのではなくしっかりと意見を届ける事が市民の義務であるということを知ることが出来ました。

そして議員の方々並びに、市の職員の皆様、模擬議会という場を通して貴重な経験をさせていただき誠にありがとうございました。

22番 有 澤 颯 太 (越ヶ谷高校)

模擬議会に参加してみて、国政についてニュースなどで見ることはあっても市政について知る機会がなかったので、実際の議場での発言や議員さんとの意見交換会などとても貴重な体験ができた。その中でも議員さんとの意見交換会では議場では聞けなかった話などを聞くことができ、また普段接することがないので自分の中で遠い職業だったが話してみてとても身近に感じられた。そして、選挙権の年齢引き下げによって政治に対しまだかかわる年ではないといったことがなくなってきているので、政治に関心を持つ良いきっかけになった。

政治に関わることだけではなく原稿作成などの準備の段階で、越谷について調べたことで地元への理解を深めたり、普段の生活で気に掛けることはなかった地元の良さに気づいたり、自分にとっていい勉強の機会となった。同時に意外にも十数年暮らしていながら、越谷について知らないことがたくさんあることにも気づかされた。

またこのような機会があればぜひ参加したい。

23番 奈良 美帆子（文教大学）

この度は模擬議会という貴重な体験をさせていただくにあたり、多くの関係者の皆様のご協力に大変感謝しております。私は当日、模擬議長を務めさせていただきました。

自分が社会を変える人間になれるとしたら、と考ただけでもワクワクします。議長を務めることで私の世界を変える、何かいいきっかけが見つかるといいなと思い、議会を運営する主軸として重要な責任がある議長を務めたいと思ったのです。

私は子供たちの人生を変えられるような存在になりたいと思い、大学で教育学を専攻する一方、教育者の現実や実情を知っていくにつれて、たかが一教師が子供たちの人生を、学校を、社会を変えることは難しいのではないかと私は最初に将来の夢を思い描いた頃の自信に満ちた自分をいつの間にか見失っていました。

議会当日、同年代・同世代の議会に臨む真剣なまなざしや自分の疑問を解決したいという強い信念、そして議員さんとの熱い討論を間近で聞いて、私も負けてはいられない！と私の心を覆っていた不安の暗雲が晴れていくのを感じました。たった1日の議会でしたが、そこで学んだことは必ずこれからの人生で役立つと確信できます。心から参加できてよかったと思っております。

それから越谷の特産品のご提供もありがとうございました。とくに越谷ネギを我が家のトン汁にふんだんにつかったところ、ネギ1つでこんなにも料理がおいしくなるのかと新発見もできました。